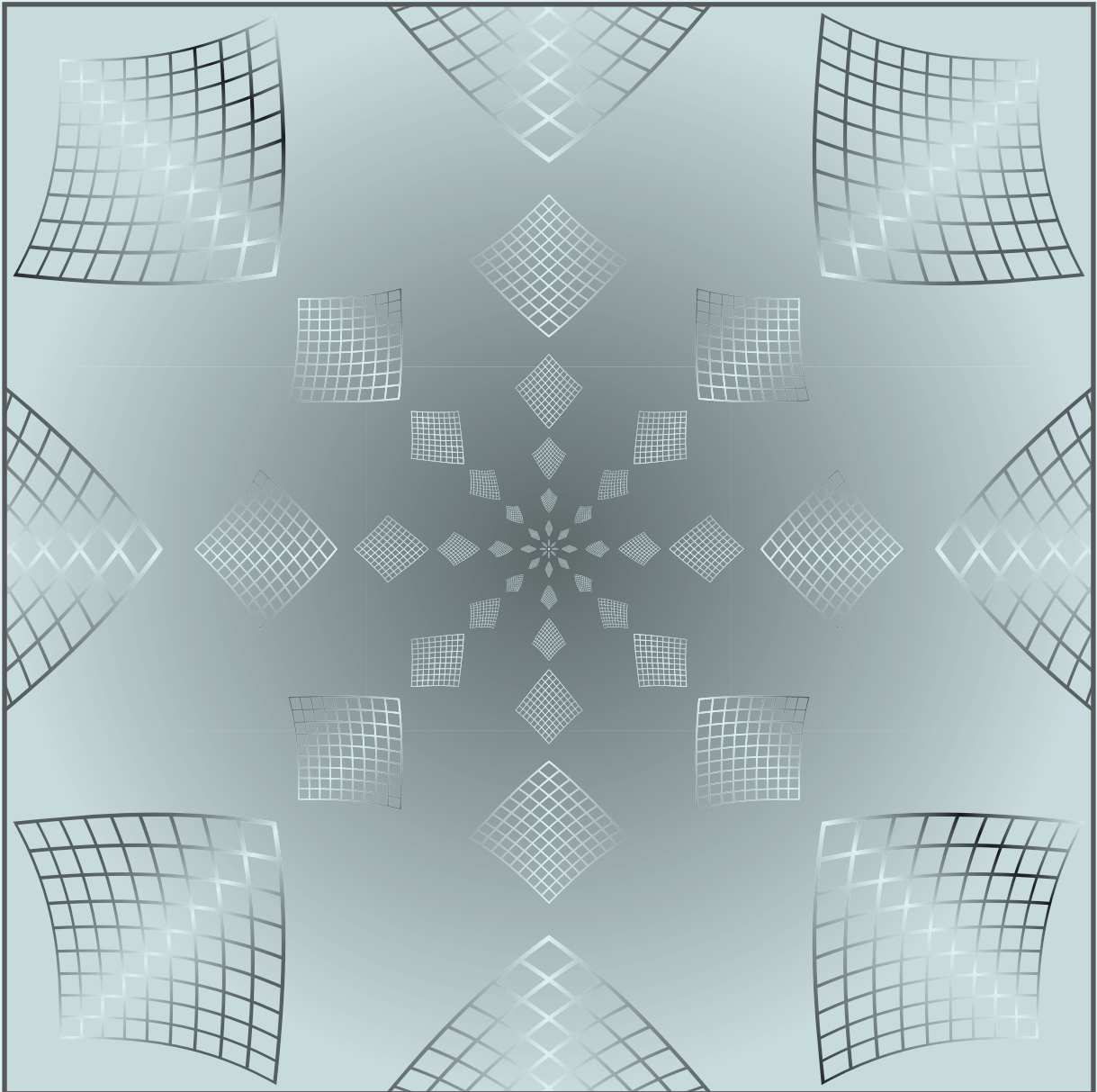

2011年度

シラバス フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

—— 総 合 目 次 ——

シラバスの見方	-----	2
2008 年度以降入学者用目次	-----	3
2003～2007 年度入学者用目次	-----	6
外国語学部共通科目（2003 年度以降入学者用）	-----	9
担当者別授業内容	-----	11

シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを確認してください。

目次の科目は学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。

科目名とページ番号をよく確認してください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部 養：国際教養学部

独：ドイツ語学科

英：英語学科

仏：フランス語学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

全：フランス語学科以外の全学部学科

経：経済学部

済：経済学科

営：経営学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

07年度以前……2003～2007年度入学者

06～07年度……2006～2007年度入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』を参照してください。

フランス語学科 授業科目(2008年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

08年度以降入学者用

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ		春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅰ(総合)		春	1	1	全	13
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	13
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ		春	1	1	全	14
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ		秋	1	1	全	14
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ		春	1	1	全	15
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	15
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	16
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	16
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)		春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(講読)		秋	1	2	全	18
フランス語Ⅲ(総合)		春	1	2	全	19
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	19
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ		春	1	2	全	20
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ		秋	1	2	全	20
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ		春	1	2	全	21
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	21
フランス語Ⅲ(構文)		春	1	2	全	22
フランス語Ⅳ(構文)		秋	1	2	全	22

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	阿部 明日香	春	木1	2	1		23
フランス芸術文化入門Ⅱ	阿部 明日香	秋	木1	2	1		23
フランス現代社会入門Ⅰ	藤田 朋久	春	水3	2	1		24
フランス現代社会入門Ⅱ	藤田 朋久	秋	水3	2	1		24

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	25
総合フランス語Ⅱ	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	25
フランス語文章表現法Ⅰ	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジェス	春	月3	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジェス	秋	月3	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	火2	2	3		28
フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	火2	2	3		28
フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3		29
フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3		29
フランス語文章表現法Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅰ	E. クロズ	春	金2	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅱ	E. クロズ	秋	金2	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅰ	F. ルーセル	春	金3	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	F. ルーセル	秋	金3	2	3		32

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語会話Ⅰ	M. P. ミュノーズ	春	火3	2	3		33
フランス語会話Ⅱ	M. P. ミュノーズ	秋	火3	2	3		33
フランス語会話Ⅰ	R. プレツフェル	春	木3	2	3		34
フランス語会話Ⅱ	R. プレツフェル	秋	木3	2	3		34
フランス語会話Ⅰ	F. ルーセル	春	金2	2	3		35
フランス語会話Ⅱ	F. ルーセル	秋	金2	2	3		35
フランス語会話Ⅰ	B. レウルス	春	金3	2	3		36
フランス語会話Ⅱ	B. レウルス	秋	金3	2	3		36
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月2	2	3		37
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月2	2	3		37
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木2	2	3		38
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木2	2	3		38
フランス語圏事情Ⅰ	伊藤 幸次	春	火1	2	2		39
フランス語圏事情Ⅱ	江花 輝昭	秋	木3	2	2		40

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	火2	2	2		41
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	火2	2	2		41
フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	木2	2	3		42
フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	木2	2	3		42
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	水1	2	2		43
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	水1	2	2		43
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	古川 直世	春	火3	2	3		44
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	古川 直世	秋	火3	2	3		44
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		45
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		45
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	水2	2	3		46
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	水2	2	3		46
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		47
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		47
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	金3	2	3		48
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	金3	2	3		48
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	水1	2	2	交	49
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	水1	2	2	交	49
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木4	2	2	交	50
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木4	2	2	交	50
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	水2	2	3		51
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	水2	2	3		51
フランス文学史Ⅰ	田村 毅	春	水2	2	2		52
フランス文学史Ⅱ	田村 毅	秋	水2	2	2		52
フランスの文学Ⅰ	田村 毅	春	月3	2	3		53
フランスの文学Ⅱ	田村 毅	秋	月3	2	3		53
フランス芸術文化各論Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		54
フランス芸術文化各論Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		54
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	火3	2	3		56
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	火3	2	3		56
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	水2	2	3		57
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	水2	2	3		57
フランス芸術文化講読Ⅰ	田村 毅	春	水4	2	3		58
フランス芸術文化講読Ⅱ	田村 毅	秋	水4	2	3		58
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅰ	伊藤 幸次	春	木3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅱ	伊藤 幸次	秋	木3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		61

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	火4	2	3		62
フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	火4	2	3		62
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	火2	2	2		63
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	火2	2	2		63
フランスの政治経済Ⅰ	千代浦 昌道	春	木1	2	2	交	64
フランスの政治経済Ⅱ	千代浦 昌道	秋	木1	2	2	交	64
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	木2	2	2	交	65
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	木2	2	2	交	65
フランス現代思想Ⅰ	若森 栄樹	春	水2	2	3		66
フランス現代思想Ⅱ	若森 栄樹	秋	水2	2	3		66
現代フランス論Ⅰ	尾玉 剛士	春	月3	2	2		67
現代フランス論Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月3	2	2		67
フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火1	2	3		68
フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火1	2	3		68
フランス現代社会講読Ⅰ	尾玉 剛士	春	月2	2	3		69
フランス現代社会講読Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月2	2	3		69
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火3	2	3		70
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火3	2	3		70
フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	水1	2	3		71
フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	水1	2	3		71
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	水2	2	3		72
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	水2	2	3		72
フランス現代社会講読Ⅰ	横地 卓哉	春	木2	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	木2	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅰ	若森 栄樹	春	木3	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅱ	若森 栄樹	秋	木3	2	3		74

交流文化論(09年度以降入学者)

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
交流文化論(サステナブル・ツーリズム論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養 経・法	75
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	火4	2	2	交・養 経・法	76
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	春	水4	2	2	交・養 経・法	77
交流文化論(航空産業論)	山路 顕	春	木2	2	2	交・養 経・法	78
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金1	2	2	交・養 経・法	79
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	金2	2	2	交・養 経・法	80
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養 経・法	81
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養 経・法	82
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	秋	火4	2	2	交・養 経・法	83
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	秋	火5	2	2	交・養 経・法	84
交流文化論(ツーリズム政策論)	山路 顕	秋	火5	2	2	交・養 経・法	85
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	山路 顕	秋	木2	2	2	交・養 経・法	86
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	秋	金1	2	2	交・養 経・法	87
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養 経・法	88
交流文化論(パフォーマンス研究)	高橋 雄一郎	秋	金2	2	2	交・養 経・法	89
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養 経・法	90
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養 経・法	91

フランス語学科 授業科目 (2003～2007年度入学者用 目次)

学科基礎科目

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰa・b(文法)	授業時間割表を参照し てください。	春・秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰa・b(講読) 既修者のみ		春・秋	1	1	全	12
フランス語Ⅰa・b(総合)		春・秋	1	1	全	13
フランス語Ⅰa・b(会話)未修者のみ		春・秋	1	1	全	15
フランス語Ⅰa・b(LL)		春・秋	1	1	全	16
フランス語Ⅱa・b(文法)		春・秋	1	2	全	17
フランス語Ⅱa・b(講読)		春・秋	1	2	全	18
フランス語Ⅱa・b(総合)		春・秋	1	2	全	19
フランス語Ⅱa・b(会話)未修者のみ		春・秋	1	2	全	21
フランス語Ⅱa・b(文章表現)		春・秋	1	2	全	22

学科共通科目

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語a	授業時間割表を参照してください。	春	2	3	全	25
総合フランス語b	授業時間割表を参照してください。	秋	2	3	全	25
フランス語文章表現法a	PH. ヴァネ	春 月2	2	3		26
フランス語文章表現法b	PH. ヴァネ	秋 月2	2	3		26
フランス語文章表現法a	C. パジェス	春 月3	2	3		27
フランス語文章表現法b	C. パジェス	秋 月3	2	3		27
フランス語文章表現法a	Ch. ペリセロ	春 火3	2	3		29
フランス語文章表現法b	Ch. ペリセロ	秋 火3	2	3		29
フランス語文章表現法a	E. クロズ	春 金2	2	3		31
フランス語文章表現法b	E. クロズ	秋 金2	2	3		31
フランス語文章表現法a	F. ルーセル	春 金3	2	3		32
フランス語文章表現法b	F. ルーセル	秋 金3	2	3		32
和文仏訳a	小石 悟	春 火2	2	3		28
和文仏訳b	小石 悟	秋 火2	2	3		28
和文仏訳a	筒井 伸保	春 水1	2	3		30
和文仏訳b	筒井 伸保	秋 水1	2	3		30
フランス語会話a	M. P. ミュノーズ	春 火3	2	3		33
フランス語会話b	M. P. ミュノーズ	秋 火3	2	3		33
フランス語会話a	R. ビレツフェエル	春 木3	2	3		34
フランス語会話b	R. ビレツフェエル	秋 木3	2	3		34
フランス語会話a	F. ルーセル	春 金2	2	3		35
フランス語会話b	F. ルーセル	秋 金2	2	3		35
フランス語会話a	B. レウルス	春 金3	2	3		36
フランス語会話b	B. レウルス	秋 金3	2	3		36
時事フランス語a	井上 美穂	春 木2	2	3		38
時事フランス語b	井上 美穂	秋 木2	2	3		38
商業フランス語a	C. パジェス	春 月2	2	3		37
商業フランス語b	C. パジェス	秋 月2	2	3		37

学科専門科目

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期		単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学概論a	田中 善英	春	火2	2	3		41
フランス語学概論b	田中 善英	秋	火2	2	3		41
フランス文学概論a	阿部 明日香	春	木1	2	1		23
フランス文学概論b	阿部 明日香	秋	木1	2	1		23
フランス語史a	休講						
フランス語史b	休講						
フランス文学史a	田村 毅	春	水2	2	2		52
フランス文学史b	田村 毅	秋	水2	2	2		52
フランス語学各論a	古川 直世	春	火3	2	3		44
フランス語学各論b	古川 直世	秋	火3	2	3		44
フランス文学各論a	田村 毅	春	月3	2	3		53
フランス文学各論b	田村 毅	秋	月3	2	3		53
フランス文学各論a	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		54
フランス文学各論b	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		54
フランス語学講読a	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		45
フランス語学講読b	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		45
フランス語学講読a	中村 公子	春	水2	2	3		46
フランス語学講読b	中村 公子	秋	水2	2	3		46
フランス語学講読a	小石 悟	春	木3	2	3		47
フランス語学講読b	小石 悟	秋	木3	2	3		47
フランス語学講読a	田中 善英	春	金3	2	3		48
フランス語学講読b	田中 善英	秋	金3	2	3		48
フランス文学講読a	江花 輝昭	春	火2	2	3		55
フランス文学講読b	江花 輝昭	秋	火2	2	3		55
フランス文学講読a	筒井 伸保	春	火3	2	3		56
フランス文学講読b	筒井 伸保	秋	火3	2	3		56
フランス文学講読a	阿部 明日香	春	水2	2	3		57
フランス文学講読b	阿部 明日香	秋	水2	2	3		57
フランス文学講読a	田村 毅	春	水4	2	3		58
フランス文学講読b	田村 毅	秋	水4	2	3		58
フランス文学講読a	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		59
フランス文学講読b	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		59
フランス文学講読a	伊藤 幸次	春	木3	2	3		60
フランス文学講読b	伊藤 幸次	秋	木3	2	3		60
フランス文学講読a	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		61
フランス文学講読b	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		61
フランス文化・社会概論a	藤田 朋久	春	水3	2	1		24
フランス文化・社会概論b	藤田 朋久	秋	水3	2	1		24
フランス事情	伊藤 幸次	春	火1	2	2		39
フランス事情	江花 輝昭	秋	木3	2	2		40
フランスの地誌a	鈴木 隆	春	火4	2	2		62
フランスの地誌b	鈴木 隆	秋	火4	2	2		62
フランスの歴史a	藤田 朋久	春	火2	2	2		63
フランスの歴史b	藤田 朋久	秋	火2	2	2		63
フランスの思想a	若森 栄樹	春	水2	2	2		66
フランスの思想b	若森 栄樹	秋	水2	2	2		66
フランスの美術a	阿部 明日香	春	水1	2	2		49
フランスの美術b	阿部 明日香	秋	水1	2	2		49
フランスの音楽a	松橋 麻利	春	木4	2	2		50
フランスの音楽b	松橋 麻利	秋	木4	2	2		50
フランスの演劇a	江花 輝昭	春	水2	2	2		51
フランスの演劇b	江花 輝昭	秋	水2	2	2		51
フランスの政治a	廣田 愛理	春	木2	2	2		65
フランスの政治b	廣田 愛理	秋	木2	2	2		65
フランスの経済a	千代浦 昌道	春	木1	2	2		64
フランスの経済b	千代浦 昌道	秋	木1	2	2		64

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期		単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス文化・社会各論a	PH. ヴァネ	春	火1	2	3		68
フランス文化・社会各論b	PH. ヴァネ	秋	火1	2	3		68
フランス文化・社会講読a	尾玉 剛士	春	月2	2	3		69
フランス文化・社会講読b	尾玉 剛士	秋	月2	2	3		69
フランス文化・社会講読a	藤田 朋久	春	火3	2	3		70
フランス文化・社会講読b	藤田 朋久	秋	火3	2	3		70
フランス文化・社会講読a	鈴木 隆	春	水1	2	3		71
フランス文化・社会講読b	鈴木 隆	秋	水1	2	3		71
フランス文化・社会講読a	廣田 愛理	春	水2	2	3		72
フランス文化・社会講読b	廣田 愛理	秋	水2	2	3		72
フランス文化・社会講読a	横地 卓哉	春	木2	2	3		73
フランス文化・社会講読b	横地 卓哉	秋	木2	2	3		73
フランス文化・社会講読a	若森 栄樹	春	木3	2	3		74
フランス文化・社会講読b	若森 栄樹	秋	木3	2	3		74

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水1		2	1	養・経・法	93
総合講座	廣田 愛理	秋	水1		2	1	養・経・法	93
総合講座	工藤 達也	春	水3		2	1	養・経・法	94
総合講座	飯嶋 曜子	秋	水3		2	1	養・経・法	94
情報科学概論a	黄 海湘	春	水2	50	2	1	養・経・法	95
情報科学概論b	休講							
(入門)情報科学各論	各担当教員							96~98
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	50	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	50	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	50	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	50	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	秋	木3	50	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	火1	45	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	45	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	45	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	火1	45	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	45	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	45	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員							99~102
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	火2	30	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	30	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	30	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	火2	30	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	30	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	30	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	30	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	30	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	30	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	30	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	30	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	火3	30	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	火3	30	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	50	2	2	養・経・法	103
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	養・経・法	104
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	50	2	2	養・経・法	103
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	養・経・法	104
(HTML)情報科学各論	各担当教員							105
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	50	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	50	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	50	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	50	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	106
経済原論a	野村 容康	春	水2	350	2	1	養・経・法	107
経済原論b	野村 容康	秋	水2	350	2	1	養・経・法	107
社会心理学a	休講							
社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
 ※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

フランス語学科シラバス

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回 (1 コマずつ)、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。) 冠詞 名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 形容詞の位置 所有形容詞 指示形容詞 疑問形容詞 比較級と最上級 直説法現在の動詞の活用 (être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞) 否定形と疑問形 否定文中の de 冠詞の縮約 近接未来と近接過去 代名動詞 等 (順不同)	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。) 直説法複合過去・半過去・大過去 直説法単純未来・前未来 命令法 受動態 感嘆文 中性代名詞 人称代名詞 (直接目的、間接目的、強勢形) 関係代名詞 指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 条件法 話法 (直接話法と間接話法) 接続法 現在分詞とジェロンディフ 使役動詞 (faire と laisser) 等 (順不同)	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I（講読）（既修クラスのみ履修） フランス語 Ia（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1 年生では既修クラスのみ履修します。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に担当教員より説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II（講読）（既修クラスのみ履修） フランス語 Ib（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I（総合） フランス語 Ia（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスは「L L」、「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> を用います。既修クラスでは「L L」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。 未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。 既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。 進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。		<table><tr><td></td><td><i>Champion I</i></td><td><i>Reflets I</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 0</td><td>Dossier 0</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 1</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 2</td><td></td></tr><tr><td>5</td><td></td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 3</td><td></td></tr><tr><td>7</td><td></td><td></td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 4</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>9</td><td></td><td></td></tr><tr><td>10</td><td>Bilan 1</td><td></td></tr><tr><td>11</td><td></td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 5</td><td></td></tr><tr><td>13</td><td></td><td></td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td></td><td></td></tr></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 0	Dossier 0	2	Unité 1	Dossier 1	3			4	Unité 2		5		Dossier 2	6	Unité 3		7			8	Unité 4	Dossier 3	9			10	Bilan 1		11		Dossier 4	12	Unité 5		13			14	まとめ	まとめ	15		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Unité 0	Dossier 0																																																	
2	Unité 1	Dossier 1																																																	
3																																																			
4	Unité 2																																																		
5		Dossier 2																																																	
6	Unité 3																																																		
7																																																			
8	Unité 4	Dossier 3																																																	
9																																																			
10	Bilan 1																																																		
11		Dossier 4																																																	
12	Unité 5																																																		
13																																																			
14	まとめ	まとめ																																																	
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II（総合） フランス語 Ib（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
同上。		<table><tr><td></td><td><i>Champion I</i></td><td><i>Reflets I</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 7</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td></td></tr><tr><td>8</td><td></td><td></td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>10</td><td></td><td></td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 10</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td></td><td></td></tr><tr><td>13</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>14</td><td></td><td></td></tr><tr><td>15</td><td></td><td></td></tr></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 6	Dossier 5	2			3	Unité 7		4			5	Unité 8	Dossier 6	6			7	Bilan 2		8			9	Unité 9	Dossier 7	10			11	Unité 10		12			13	まとめ	まとめ	14			15		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Unité 6	Dossier 5																																																	
2																																																			
3	Unité 7																																																		
4																																																			
5	Unité 8	Dossier 6																																																	
6																																																			
7	Bilan 2																																																		
8																																																			
9	Unité 9	Dossier 7																																																	
10																																																			
11	Unité 10																																																		
12																																																			
13	まとめ	まとめ																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
同上。		同上。																																																	

08 年度以降	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。		担当教員より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員より指示されます。		担当教員より指示されます。	

08 年度以降	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> 、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週 1 回の授業です。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III（講読） フランス語 IIa（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV（講読） フランス語 IIb（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III（総合） フランス語 IIa（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。		<table><tr><td></td><td><i>Champion 1</i></td><td><i>Reflets 1</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 12</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td></td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>5</td><td>Bilan 3</td><td></td></tr><tr><td>6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 13</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>8</td><td></td><td></td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 14</td><td></td></tr><tr><td>10</td><td></td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 15</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td></td><td></td></tr><tr><td>13</td><td>まとめ</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>14</td><td></td><td></td></tr><tr><td>15</td><td></td><td></td></tr></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>	1	Unité 11	Dossier 8	2			3	Unité 12		4		Dossier 9	5	Bilan 3		6			7	Unité 13	Dossier 10	8			9	Unité 14		10		Dossier 11	11	Unité 15		12			13	まとめ	Dossier 12	14			15		
	<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>																																																	
1	Unité 11	Dossier 8																																																	
2																																																			
3	Unité 12																																																		
4		Dossier 9																																																	
5	Bilan 3																																																		
6																																																			
7	Unité 13	Dossier 10																																																	
8																																																			
9	Unité 14																																																		
10		Dossier 11																																																	
11	Unité 15																																																		
12																																																			
13	まとめ	Dossier 12																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV（総合） フランス語 IIb（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
同上。		<table><tr><td></td><td><i>Champion 1 & 2</i></td><td><i>Reflets 2</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 16</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>3</td><td>Bilan 6</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>5</td><td><i>Champion 2</i> Unité 1</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 2</td><td></td></tr><tr><td>8</td><td></td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 3</td><td></td></tr><tr><td>10</td><td></td><td></td></tr><tr><td>11</td><td>Bilan 1</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 4</td><td></td></tr><tr><td>13</td><td></td><td></td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td></td><td></td></tr></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 16		2		Dossier 1	3	Bilan 6		4			5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2	6			7	Unité 2		8		Dossier 3	9	Unité 3		10			11	Bilan 1	Dossier 4	12	Unité 4		13			14	まとめ	まとめ	15		
	<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 16																																																		
2		Dossier 1																																																	
3	Bilan 6																																																		
4																																																			
5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2																																																	
6																																																			
7	Unité 2																																																		
8		Dossier 3																																																	
9	Unité 3																																																		
10																																																			
11	Bilan 1	Dossier 4																																																	
12	Unité 4																																																		
13																																																			
14	まとめ	まとめ																																																	
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1, 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		同上。																																																	

08 年度以降	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。 教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。		担当教員より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員より指示されます。		担当教員より指示されます。	

08 年度以降	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III（会話）（未修クラスのみ履修） フランス語 IIa（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。 教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 III（総合）」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV（会話）（未修クラスのみ履修） フランス語 IIb（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 IV（総合）」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 06～07年度 03～05年度	フランス語 III（構文） フランス語 IIa（文章表現） フランス語 IIa（L L）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。 必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。 具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。 （注意）2005年度以前入学生の「フランス語 II a, b (LL)」の再履修は、2年生に 2008 年度から導入されたこの科目を履修してください。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 06～07年度 03～05年度	フランス語 IV（構文） フランス語 IIb（文章表現） フランス語 IIb（L L）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化入門 I フランス文学概論 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの芸術・文化に関する基礎知識を習得し、「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的した授業である。そのため、フランスの芸術・文化について、広範囲にわたるテーマを概括的に講義する。 「フランス芸術文化入門 I」（春学期）では、特に文学にテーマを絞り、中世から 20 世紀までのフランス文学を概観する。1 年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランス文学に親しむ機会を提供したい。 フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で受講してください。 「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」		第 1 回（4/7）：ガイダンス（阿部明日香） 第 2 回（4/14）：フランス文学の流れ（谷口亜沙子） 第 3 回（4/21）：20 世紀の文学 1（谷口亜沙子） 第 4 回（4/28）：20 世紀の文学 2（谷口亜沙子） 第 5 回（5/12）：20 世紀の文学 3（谷口亜沙子） 第 6 回（5/19）：19 世紀の文学 1（伊藤幸次） 第 7 回（5/26）：19 世紀の文学 2（伊藤幸次） 第 8 回（6/2）：19 世紀の文学 3（伊藤幸次） 第 9 回（6/9）：神話と文学（中世：聖杯伝説と女性崇拜）（田村毅） 第 10 回（6/16）：歌と詩（16 世紀：近代抒情詩の誕生）（田村毅） 第 11 回（6/23）：悲劇と喜劇（17 世紀：古典演劇）（田村毅） 第 12 回（6/30）：大衆文学 1（筒井伸保） 第 13 回（7/7）：大衆文学 2（筒井伸保） 第 14 回（7/14）：大衆文学 3（筒井伸保） 第 15 回（7/21）：まとめ（阿部明日香）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントなど。 参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点（出席）を加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化入門 II フランス文学概論 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は上記参照。 「フランス芸術文化入門 II」（秋学期）では、文学以外の芸術文化一般を取り上げ、各分野ごとに入門的な講義を行う。1 年生を主な対象者とするので、できるだけ映像資料や音声資料などを活用し、分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示する。 フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で受講してください。 「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」		第 1 回（9/29）：フランスの祝祭 1（小石悟） 第 2 回（10/6）：フランスの祝祭 2（小石悟） 第 3 回（10/13）：フランス歌曲“メロディ”について 1（松橋麻利） 第 4 回（10/20）：フランス歌曲“メロディ”について 2（松橋麻利） 第 5 回（10/27）：フランス歌曲“メロディ”について 3（松橋麻利） 第 6 回（11/3）：思想入門 1（若森栄樹） 第 7 回（11/10）：思想入門 2（若森栄樹） 第 8 回（11/17）：思想入門 3（若森栄樹） 第 9 回（11/24）：フランス語と世界 1（田中善英） 第 10 回（12/1）：フランス語と世界 2（田中善英） 第 11 回（12/8）：フランス語と世界 3（田中善英） 第 12 回（12/15）：美術館と美術 1（阿部明日香） 第 13 回（12/22）：美術館と美術 2（阿部明日香） 第 14 回（1/12）：美術館と美術 3（阿部明日香） 第 15 回（1/19）：まとめ（阿部明日香）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントなど。 参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点（出席）を加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会入門Ⅰ フランス文化・社会概論 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。複数の教員によるオムニバス形式で授業を行います。春学期は右の4つのテーマを取り上げます。 なお、この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承したうえで履修してください。		1. ガイダンス（藤田朋久） 2. フランスの地域（鈴木隆） 3. フランスの地域（鈴木隆） 4. フランスの地域（鈴木隆） 5. フランスの地域（鈴木隆） 6. フランスの歴史（藤田朋久） 7. フランスの歴史（藤田朋久） 8. フランスの歴史（藤田朋久） 9. フランスの政治経済（廣田愛理） 10. フランスの政治経済（廣田愛理） 11. フランスの政治経済（廣田愛理） 12. フランスの政治経済（廣田愛理） 13. フランスの社会保障（尾玉剛士） 14. フランスの社会保障（尾玉剛士） 15. まとめ（藤田朋久）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、期末試験。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会入門Ⅱ フランス文化・社会概論 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。複数の教員によるオムニバス形式で授業を行います。秋学期は右の5つのテーマを取り上げます。 なお、この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承したうえで履修してください。		1. ガイダンス（藤田朋久） 2. フランスの教育と生活（中村公子） 3. フランスの教育と生活（中村公子） 4. フランスの教育と生活（中村公子） 5. フランスの食文化（江花輝昭） 6. フランスの食文化（江花輝昭） 7. フランスの地方生活（水林ミシェル） 8. パリ（横地卓哉） 9. パリ（横地卓哉） 10. パリ（横地卓哉） 11. フランスとヨーロッパ（フィリップ・ヴァネ） 12. フランスとヨーロッパ（フィリップ・ヴァネ） 13. フランスとヨーロッパ（フィリップ・ヴァネ） 14-15. まとめ（藤田朋久）	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、期末試験。	

08 年度以降 07 年度以前	総合フランス語 I 総合フランス語 a	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. <u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.		<table><tr><td></td><td><i>Champion 2</i></td><td><i>Reflets 2</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 7</td><td></td></tr><tr><td>9</td><td></td><td></td></tr><tr><td>10</td><td></td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 8</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td></td><td></td></tr><tr><td>13</td><td></td><td>Révision</td></tr><tr><td>14</td><td></td><td></td></tr><tr><td>15</td><td></td><td></td></tr></table> Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 5	Dossier 5	2			3			4	Unité 6	Dossier 6	5			6			7	Bilan 2	Dossier 7	8	Unité 7		9			10		Dossier 8	11	Unité 8		12			13		Révision	14			15		
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 5	Dossier 5																																																	
2																																																			
3																																																			
4	Unité 6	Dossier 6																																																	
5																																																			
6																																																			
7	Bilan 2	Dossier 7																																																	
8	Unité 7																																																		
9																																																			
10		Dossier 8																																																	
11	Unité 8																																																		
12																																																			
13		Révision																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08 年度以降 07 年度以前	総合フランス語 II 総合フランス語 b	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Voir les explications du premier semestre.		<table><tr><td></td><td><i>Champion 2</i></td><td><i>Reflets 2</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>Bilan 3</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 10</td><td></td></tr><tr><td>6</td><td></td><td></td></tr><tr><td>7</td><td></td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 11</td><td></td></tr><tr><td>9</td><td></td><td></td></tr><tr><td>10</td><td></td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 12</td><td></td></tr><tr><td>12</td><td></td><td></td></tr><tr><td>13</td><td></td><td>Révision</td></tr><tr><td>14</td><td>Bilan 4</td><td></td></tr><tr><td>15</td><td></td><td></td></tr></table> Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 9	Dossier 9	2			3			4	Bilan 3	Dossier 10	5	Unité 10		6			7		Dossier 11	8	Unité 11		9			10		Dossier 12	11	Unité 12		12			13		Révision	14	Bilan 4		15		
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 9	Dossier 9																																																	
2																																																			
3																																																			
4	Bilan 3	Dossier 10																																																	
5	Unité 10																																																		
6																																																			
7		Dossier 11																																																	
8	Unité 11																																																		
9																																																			
10		Dossier 12																																																	
11	Unité 12																																																		
12																																																			
13		Révision																																																	
14	Bilan 4																																																		
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
On n'a jamais autant écrit depuis l'arrivée des téléphones portables et de l'internet. L'écriture est à la fois un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses propres idées et sentiments. Dans ce but, elle fait appel à des règles de logique que nous essaierons de découvrir en classe : 1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. 2) Travail sur le plan. 3) Comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe. Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.		1. le 1^{er} semestre consiste en l'étude des articulations logiques. 5 Remise du devoir (1^{ère} fois) 8 Remise du devoir (2^e fois) 14. Remise du devoir (3^e fois) 15. Corrigés définitifs et conclusion.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2011.		Le grand devoir semestriel est noté. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir ci-dessus la présentation du cours. Suite du premier semestre, en particulier étude sur les questions de plan.		1. le 2^e semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes 5 Remise du devoir (1^{ère} fois) 8 Remise du devoir (2^e fois) 14 Remise du devoir (3^e fois) 15. Corrigés définitifs et conclusions.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2011.		Le grand devoir semestriel est noté. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc. (30 étudiants maximum) この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。 (30名まで) * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を春学期で扱います。（変更あり） 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 5 15. Composition finale	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc. (30 étudiants maximum) この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。 (30名まで) * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を秋学期で扱います。（変更あり） 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 6 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 7 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 8 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 9 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 10 15. Composition finale	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 日本語のテキストをもとにするが、逐語訳するのではなく、自分の知っている構文を用いて、省略、倒置、言い換えなどを行いながら、自然なフランス語を書けるようななることを目指す。 授業の概要 作文が上達するためには、書いたものを直して間違いに気づくしかない。この授業では、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考える。その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけるようにする。		第1回： ガイダンス 第2回： 関係代名詞を含む文 1 第3回： 関係代名詞を含む文 2 第4回： 複合過去・半過去・大過去を含む文 1 第5回： 複合過去・半過去・大過去を含む文 2 第6回： 条件法を含む文 1 第7回： 接続法を含む文 2 第8回： 理由を表す文 1 第9回： 理由を表す文 2 第10回： 結果を表す文 1 第11回： 結果を表す文 2 第12回： 譲歩を表す文 1 第13回： 譲歩を表す文 2 第14回： 目的を表す文 1 第15回： 目的を表す文 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じですが、単文ではなく長文（まとまったテキスト）をフランス語に直す練習を行います。		第1回： ガイダンス 第2回： 「身勝手な運転」 1 第3回： 「身勝手な運転」 2 第4回： 「身勝手な運転」 3 第5回： 「身勝手な運転」 4 第6回： 「身勝手な運転」 5 第7回： 「富をひけらかすのは野暮」 1 第8回： 「富をひけらかすのは野暮」 2 第9回： 「富をひけらかすのは野暮」 3 第10回： 「富をひけらかすのは野暮」 4 第11回： 「富をひけらかすのは野暮」 5 第12回： 「華奢な車を無謀に運転」 1 第13回： 「華奢な車を無謀に運転」 2 第14回： 「華奢な車を無謀に運転」 3 第15回： 「華奢な車を無謀に運転」 4	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Bonjour, Dans ce cours, nous travaillerons d'abord l'écriture d'une lettre amicale puis officielle. Ces pratiques vous seront utiles pour améliorer votre expression écrite (vocabulaire, grammaire, organisation des idées) mais aussi pour passer les épreuves écrites des niveaux A1 et A2 du DELF.		Cours 1 à 6 : La lettre amicale. Cours 7 à 15 : La lettre officielle (demande d'informations, réclamation, etc...)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et des « méthodologies » pour composer une lettre amicale et officielle.		L'évaluation se fera à partir des présences, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen final.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Bonjour, Dans ce cours, nous travaillerons la composition d'un court essai. Nous verrons comment organiser des idées en faisant <u>un plan</u>. Savoir faire un plan est utile pour les exercices écrits que vous pouvez faire dans des universités françaises ou pour passer des examens comme les niveaux B1 et B2 du DELF pour aller étudier en France.		Cours 1 à 2 : Lecture du sujet. Cours 3 à 4 : Recherche des idées et choix du plan. Cours 5 à 6 : Organisation des idées. Cours 6 à 7 : Ecriture de l'introduction et de la conclusion. Cours 8 à 15 : Rédaction de courts essais.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et une « méthodologie » pour composer un court essai.		L'évaluation se fera à partir des présences, du travail en classe, des devoirs (un travail écrit par mois) et d'un examen final.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法Ⅰ 和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
和文仏訳。1、2 年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。簡単な単文（主語＋動詞の文）から、複文（様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文）までの練習を行う。授業はプリントの練習問題の日本語文を仏訳する。履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員か当てるので予習が必須である。人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず 1 回目の授業に出席すること。 昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。 和仏辞典についての注意：和仏辞典(電子版を含む)の付録に付いている和仏語彙集や、ポケット版仏和・和仏辞典では足りない。 白水社の『現代和仏小辞典』か、旺文社の『プチ・ロワイヤル和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。		1 回目：授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。 2 回目以降プリントに沿って授業を進める。3 回の授業で 1 課分のプリントを終える進度が標準。 3：続き。 4：続き。 5：続き。 6：続き。 7：続き。 8：続き。 9：続き。 10：続き。 11：続き。 12：続き。 13：続き。 14：続き。 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		平常点(出席・授業への参加度)と学期末試験(ノート・辞書持ち込み不可)。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法Ⅱ 和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
上記参照。 春学期末履修者の履修は可。		春学期の続き。プリントに沿って授業を進める。3 回の授業で 1 課分のプリントを終える進度が標準。 1 回目：春学期の続き。 2：続き。 3：続き。 4：続き。 5：続き。 6：続き。 7：続き。 8：続き。 9：続き。 10：続き。 11：続き。 12：続き。 13：続き。 14：続き。 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	E. クロズ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Développer votre capacité à rédiger en français, en travaillant parallèlement la grammaire, le vocabulaire et l'orthographe. Nous écrirons des lettres, des résumés, des articles de journal, des slogans publicitaires, des essais, etc. Déroulement du cours : - acquisition du vocabulaire nécessaire à la production écrite, - révision de la grammaire, exercices et orthographe grammaticale, - lecture et compréhension d'un document qui reprend les points abordés, - production écrite, individuelle ou en groupes.		Thèmes abordés : 1-2 : Le travail (décrire des activités présentes ou passées) 3-4 : Les activités de week-end (proposer à quelqu'un de faire quelque chose, parler des activités de week-end) 5-6 : Les vacances (raconter une expérience passée, comparer deux époques) 7-8 : Les branchés, les Bobos (donner son opinion sur les gens et leur façon de vivre) 9-10 : Un nouveau parfum ! (donner son opinion sur quelque chose) 11-12 : Enfants et adolescents : la tyrannie des marques (écrire une lettre pour décrire un événement, pour commenter quelque chose) 13-14-15 : Les goûts et les couleurs (transmettre une information, la résumer pour quelqu'un)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Expression écrite Sylvie Poisson-Quinton, Reine Mimran Clé International		Participation en classe, productions écrites	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	E. クロズ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Développer votre capacité à rédiger en français, en travaillant parallèlement la grammaire, le vocabulaire et l'orthographe. Nous écrirons des lettres, des résumés, des articles de journal, des slogans publicitaires, des essais, etc. Déroulement du cours : - acquisition du vocabulaire nécessaire à la production écrite, - révision de la grammaire, exercices et orthographe grammaticale, - lecture et compréhension d'un document qui reprend les points abordés, - production écrite, individuelle ou en groupes.		Thèmes abordés : 1-2 : Dis-moi ce que tu manges (relater une expérience personnelle) 3-4 : De quoi avez-vous peur ? (raconter une anecdote, exprimer ses émotions) 5-6 : La vie en solo (décrire un projet de vie) 7-8 : Comment réussir la vie à deux (décrire un projet de vie, ses goûts et préférences) 9-10 : Jeune fille partagerait appartement (rédiger une annonce, informer, exposer un souhait, un projet) 11-12 : L'école à 2 ans (être pour ou contre, justifier une opinion, exprimer une objection) 13-14-15 : Pour ou contre un examen d'entrée à l'université ! (être pour ou contre, justifier une opinion)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Expression écrite Sylvie Poisson-Quinton, Reine Mimran Clé International		Participation en classe, productions écrites	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de vous permettre de mieux savoir écrire en français. Plusieurs sortes de situation d'écriture seront abordées, et l'amélioration de votre écriture sera travaillée sous tous ses aspects : choix des mots, correction grammaticale, structure de la phrase, structure globale etc. Un travail régulier sera demandé aux étudiants (devoirs). Les formes d'écriture étudiées pourront être choisies selon les besoins précis des étudiants (par exemple : préparation d'un examen comme le DELF ou le DALF, etc.). Pour cette raison, le plan de cours donné ci-contre est indicatif. Les types d'exercices prévus au programme sont les mêmes au semestre de printemps et au semestre d'automne. Mais le contenu précis (sujets) sera différent.		1 : les différences oral/écrit, l'orthographe 2 : le récit (1/2) 3 : le récit (2/2) 4 : la description (1/2) 5 : la description (2/2) 6 : le courriel (e-mail) (1/2) 7 : le courriel (e-mail) (2/2) 8 : la lettre formelle (1/2) 9 : la lettre formelle (2/2) 10 : le résumé (1/2) 11 : le résumé (2/2) 12 : la synthèse (1/2) 13 : la synthèse (2/2) 14 : l'essai argumentatif (1/2) 15 : l'essai argumentatif (2/2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel (les documents utiles seront distribués en classe en cas de besoin).		Contrôle continu (assiduité, participation, devoirs)	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de vous permettre de mieux savoir écrire en français. Plusieurs sortes de situation d'écriture seront abordées, et l'amélioration de votre écriture sera travaillée sous tous ses aspects : choix des mots, correction grammaticale, structure de la phrase, structure globale etc. Un travail régulier sera demandé aux étudiants (devoirs). Les formes d'écriture étudiées pourront être choisies selon les besoins précis des étudiants (par exemple : préparation d'un examen comme le DELF ou le DALF, etc.). Pour cette raison, le plan de cours donné ci-contre est indicatif. Les types d'exercices prévus au programme sont les mêmes au semestre de printemps et au semestre d'automne. Mais le contenu précis (sujets) sera différent.		1 : les différences oral/écrit, l'orthographe 2 : le récit (1/2) 3 : le récit (2/2) 4 : la description (1/2) 5 : la description (2/2) 6 : le courriel (e-mail) (1/2) 7 : le courriel (e-mail) (2/2) 8 : la lettre formelle (1/2) 9 : la lettre formelle (2/2) 10 : le résumé (1/2) 11 : le résumé (2/2) 12 : la synthèse (1/2) 13 : la synthèse (2/2) 14 : l'essai argumentatif (1/2) 15 : l'essai argumentatif (2/2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel (les documents utiles seront distribués en classe en cas de besoin).		Contrôle continu (assiduité, participation, devoirs)	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M.P. ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques. A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront discuter des différents sujets abordés dans les documents.		1. Présentation – evaluation du niveau des étudiants. 2. La France 3. Discussion 4. L'habitat 5. Discussion 6. La musique 7. Discussion 8. Le travail 9. Discussion 10. L'argent 11. Discussion 12. La télé 13. Discussion 14. Les vacances 15. Discussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M.P. ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques. A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront discuter des différents sujets abordés dans les documents.		1. Révisions 2. Les animaux 3. Discussion 4. Les langues 5. Discussion 6. Le cinéma 7. Discussion 8. Internet 9. Discussion 10. Les superstitions 11. Discussion 12. Les vêtements, la mode 13. Discussion 14. Les bonnes résolutions 15. Discussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	R. ブレッフユエル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'améliorer vos compétences en compréhension et en expression orales et de découvrir la France et les Français au travers de 3 grands thèmes : 1. l'éducation 2. la culture 3. la société Pour travailler la compréhension orale, nous utiliserons des extraits de films, des reportages (vidéo et audio), des chansons ou des clips vidéo. Après ce travail d'écoute, vous serez invités à vous exprimer sur le thème en question.		1. Présentation du cours et des participants 2-3 : A quel âge les jeunes deviennent-ils indépendants ? 4-5 : La culture gratuite : musées et journaux 6-7 : Le chômage des jeunes diplômés en France 8-9 : La vie à la française : bien manger et bien dormir 10-11 : Musique et artistes français contemporains 12-13 : Quitter Paris : la vie en province 14-15 : Les vacances des Français	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par l'enseignant		Contrôle continu Présence et participation active	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	R. ブレッフユエル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'améliorer vos compétences en compréhension et en expression orales et de découvrir la France et les Français au travers de 3 grands thèmes : 1. l'éducation 2. la culture 3. la société Pour travailler la compréhension orale, nous utiliserons des extraits de films, des reportages (vidéo et audio), des chansons ou des clips vidéo. Après ce travail d'écoute, vous serez invités à vous exprimer sur le thème en question.		1. Discussion et révisions 2-3 : Les Français et Internet 4-5 : Croissants et sandwiches = gastronomie française ? 6-7 : Vie étudiante et lycéenne en France 8-9 : Travailler en France 10-11 : A la découverte du sud de la France : le Midi 12-13 : Musique et chanteurs à texte 14-15 : Le nouvel an en France	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par l'enseignant		Contrôle continu Présence et participation active	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours : 1) Quoi de neuf ? 2) Exposé présenté par un-e étudiant-e 3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre. Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents) seront différents.		1. Présentation du cours, technique de l'exposé 2. L'actualité en France 3. L'actualité au Japon 4. La chanson, la musique 5. Le cinéma, la télévision 6. La littérature, la lecture 7. Les Beaux-Arts, les musées 8. L'art de vivre en France 9. L'art de vivre au Japon 10. Questions de société actuelles 11. Questions politiques actuelles 12. Les hommes et les femmes, la parité, le couple 13. L'éducation. Être étudiant-e aujourd'hui 14. Petites questions de philosophie 15. Et après ? (imaginer le futur)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel. Les documents seront distribués en classe par le professeur.		Le contrôle est continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	F. ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours : 1) Quoi de neuf ? 2) Exposé présenté par un-e étudiant-e 3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre. Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents) seront différents.		1. Présentation du cours, technique de l'exposé 2. L'actualité en France 3. L'actualité au Japon 4. La chanson, la musique 5. Le cinéma, la télévision 6. La littérature, la lecture 7. Les Beaux-Arts, les musées 8. L'art de vivre en France 9. L'art de vivre au Japon 10. Questions de société actuelles 11. Questions politiques actuelles 12. Les hommes et les femmes, la parité, le couple 13. L'éducation. Être étudiant-e aujourd'hui 14. Petites questions de philosophie 15. Et après ? (imaginer le futur)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel. Les documents seront distribués en classe par le professeur.		Le contrôle est continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話Ⅰ フランス語会話 a	担当者	B. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけでなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』 授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。 Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical. 参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8		1. フランス生活暦(1) 年中行事・祭り・ 2. フランスにおける日本文化：マンガ・カラオケ・スドク 3. 食べる楽しみ：美食の国とマルシェ文化 4. 東京にある小さなフランス：文化・企業・イベント 5. バカンスの過ごし方 (1) 6. フランスのベビーブームの秘密が知りたい！ 7. 南仏：魅力あふれる文化&ライフスタイル 8. フランス映画のルネサンスとニューシネマ 9. フランス教育制度：大衆化&エリート主義 10. 冠詞：定冠詞・不定冠詞 11. 冠詞の作り方と使い方 12. フランスの学生生活：大学進学 13. フランス人の生活観：家族 14. フランスの世界遺産(1) 15. 評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話Ⅱ フランス語会話 b	担当者	B. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけでなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』 授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。 Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical. 参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8		1. フランス生活暦(2)：年中行事・祭り・イベント(ハロウィーンとケルト文化・ボジョレーヌーヴォー・ノエル) 2. フランスにおける日本文化：和食(スシ・ワカメ・シイタケ)アニメ・ブランド 3. 食べるたのしみ：美食の国とスローフード 4. 東京にある小さなフランス：カフェ・グルメ・イベント 5. バカンスの過ごし方(2) 6. 恋愛観と結婚観：結婚とは過去のもの？(離婚・婚外の増加・片親家族) 7. ブルタニュー地方とケルト文化。ブルタニュー地方とそば文化(クレープ&ガレット) 8. 世界最大の映画祭：カンヌ国際映画祭 9. フランス教育制度：大衆化&エリート主義(2) 10. 過去形：複合過去(作り方・使い方) 11. 過去形：半過去(作り方・使い方) 12. 義務を言う 13. 量の比較を言う 14. フランスの世界遺産(2) 15. 評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 I 商業フランス語 a	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を春学期で扱います。(変更あり) Exemples de thèmes étudiés : - La formation / Les diplômes - Rechercher un emploi - Candidature / CV - Les pratiques de recrutement - Entretien d'embauche / Lettre de motivation - Les contrats de travail - Professions et métiers	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 II 商業フランス語 b	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を秋学期で扱います。(変更あり) Exemples de thèmes étudiés : - Fonctions dans l'entreprise - Organiser un déplacement - Réserver une chambre d'hôtel - Réserver un billet d'avion / de train - Organiser son emploi du temps - Prendre contact par téléphone - Courrier et courriel	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08 年度以降 07 年度以前	上級フランス語 I 時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標は、以下の 3 点です。 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 毎回の授業で、この 3 つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答を見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の 3 つの練習は、すべてパソコンを使って行います。 授業内容は、TCF の対策としても有効だと思われます。		基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを 3 つの練習の共通テーマとします。2011 年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2010 年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。 1. ワイン 2. ベルギーの伝説圏とオランダ語圏 3. Roissy 空港 4. 5 月 1 日とは 5. 通貨ユーロ 6. カヌ映画祭 7. サッカー 8. 高速鉄道 TGV 9. 地中海のクロマグロ 10. 宇宙 11. サルコジ大統領 12. 日曜営業 13. 原子力エネルギー	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08 年度以降 07 年度以前	上級フランス語 II 時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標は、以下の 3 点です。 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 毎回の授業で、この 3 つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答を見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の 3 つの練習は、すべてパソコンを使って行います。 授業内容は、TCF の対策としても有効だと思われます。		基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを 3 つの練習の共通テーマとします。2011 年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2010 年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。 1. 引退・年金生活 2. 電気自動車 3. 神の雫 4. スイス 5. トタル社 6. ベルサイユ宮殿 7. ハイチ 8. フィヨン第 3 次内閣 9. 国境なき医師団 10. 心のレストラン 11. コートジボワール 12. クリスマス市 13. カカオバターのチョコレート	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語圏事情Ⅰ フランス事情	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ以外のフランス語圏、特にアフリカは旧フランス領の植民地だったところです。この講義では先ず、この地域の気候・風土・民族・言語・宗教などについて概観し、さらにフランスの政治・経済・軍事的プレゼンスについても紹介します。 次いで北アフリカの代表としてモロッコ、西アフリカの代表としてセネガルを取り上げ、主としてフランス人の眼から見たトピックや問題点を、フランス人向けの資料や映像を通して観察し、植民者と被植民者の関係性を垣間見ます。時間が許せばフランスの中のアフリカについても言及します。 比較対照群として、強い経済力と文化的伝統を持つ日本について、フランス人向け資料がどう取り扱っているかを見て、アフリカとの異同について考えて行きます。 出席者には文献の訳読やトピックについてのプレゼンを担当していただきます。 この授業はフランス語教員免許状取得を前提として行います。当然のモラルとして遅刻は認めません。9時には入室するようにしてください。毎週アンケートを取って平常点をつけますので、就活などで出席できない人も登録しないでください。火曜の就活は午後にして下さい。		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 フランス語圏のアフリカ 2 マグレブ、ベルベル、トゥアレグ 3 ジブチからダカールへ 4 ボー・ジェストとコロニアル 5 セウタとタンジェール 6 ジャマ・エル・フナ 7 平行イトコ婚と交差イトコ婚 8 サン・ルイ島とゴレ島 9 バナバナとプランテーション 10 マンディンカ 11 モーラーデ 12 日本一禅1 13 日本一禅2 14 惑星一江戸 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は講義支援システムで配布 ディスク等を授業中紹介		評価方法：まとめのテストと発表および毎週アンケートを取る平常点	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語圏事情 II フランス事情	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランスワインの文化史」と題して、様々なエピソードに触れつつ、フランスワインの歴史の概略をたどります。文化としてのワインという視点を崩すことなく、ワインがフランス文化の中でどのような位置を占め、どのような作り方、飲まれ方をしてきたのかという観点から授業を行います。決してワインガイド的な授業ではありませんので、勘違いしないようにしてください。 受講者の理解を助けるために、映像資料等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は大変厳しいので、A を揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 授業概要 2. ワインの起源、フランスへの移入 3. 中世・ルネサンスにおけるフランスのワイン 4. ブルゴーニュにおけるワインの歴史（1） 5. ブルゴーニュにおけるワインの歴史（2） 6. ボルドーにおけるワインの歴史（1） 7. ボルドーにおけるワインの歴史（2） 8. シャンパーニュの歴史（1） 9. シャンパーニュの歴史（2） 10. その他の地方のワイン 11. 現代フランスワインの諸問題（1） 12. 現代フランスワインの諸問題（2） 13. 現代フランスワインの諸問題（3） 14. ワインと食事 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業時に紹介。		学期末に提出するレポートによる評価。ただし、6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 I フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるものとなる。 受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも1年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。 その他：詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同） ・なぜ、言語は生まれ、死んでいくのか。 ・なぜ、aller の活用形は語幹さえ替わるのか。 ・なぜ、beau には bel という男性第二形があるのか。 ・なぜ、des maisons blanches と言うのに、de petites maisons になるのか。 ・なぜ、初出の名詞にも定冠詞が付くことがあるのか。 ・不定冠詞を用いた総称文は定冠詞を用いた総称文とどう異なるのか。 ・否定文と冠詞の関係。 ・なぜ、非人称構文が存在するのか。 ・なぜ、受動態という形式が存在するのか。 ・なぜ、Que Pierre a-t-il fait ? とは言えないのか。 ・なぜ、疑問文以外でも主語倒置は起こるのか。 ・使役構文と放任構文の仕組み。 ・そもそも中性代名詞とは何か。 扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 II フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08 年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語を書いたり、話ししていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目を取りあげます。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。 授業の概要 1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、コミュニケーションに欠かせない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞、論理的な文を書くために不可欠なさまざまな表現を取りあげる。		第1回： ガイダンス 第2回：場所を表す前置詞 1 第3回：場所を表す前置詞 2 第4回：場所を表す前置詞 3 第5回：手段を表す前置詞 1 第6回：手段を表す前置詞 2 第7回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1 第8回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1 第9回：être + 冠詞 第10回：一般的なことを表す冠詞 1 第11回：一般的なことを表す冠詞 2 第12回：部分冠詞 1 第13回：部分冠詞 2 第14回：部分冠詞 3 第15回：冠詞に関する練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08 年度以降	フランス語文章理論 II	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		第1回： ガイダンス 第2回：emploi passif du verbe pronominal 1 第3回： emploi passif du verbe pronominal 2 第4回：« que » complétif 第5回：理由を表す接続詞 第6回：理由を表す前置詞 1 第7回：理由を表す動詞 第8回：結果を表す接続詞 1 第9回：結果を表す接続詞 2 第10回：結果を表す副詞 第11回：譲歩を表す接続詞 第12回：譲歩を表す表現 1 第13回：譲歩を表す表現 2 第14回：目的を表す接続詞・前置詞 第15回：articulateurs	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08 年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。 <講義概要> 今年は「Activités」をテーマとする。 春学期は、フランス語教育の変遷に沿って各時代の教授法の特徴と練習問題のタイプについて学習する。また、activités d'apprentissage について exercices との違いを考え、何らかの学習項目について activités をグループで作成してみる。自分自身のフランス語学習の学習方法に役立てられる「学習のヒント」を各自でそれぞれに見つけてもらえると嬉しい。 授業は教授法についての講義と、activités のための個人作業やグループ作業で進める。		1. Introduction 2. フランス語教育の変遷 1 3. フランス語教育の変遷 2 4. フランス語教育の変遷 3 5. フランス語教育の変遷 4 6. フランス語教育の変遷 5 7. フランス語教育の変遷 6 8. Activités d'apprentissage 1 9. Activités d'apprentissage 2 10. Activités d'apprentissage 3 11. Activités d'apprentissage 4 12. Activités d'apprentissage 5 13. Activités d'apprentissage 6 14. Activités d'apprentissage 7 15. まとめ (順番と内容は授業の進行状況により変更する。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、課題、授業参加態度、個別作業、グループ作業と発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08 年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。 <講義概要> 今年は「Activités」をテーマとする。 秋学期は Compréhension orale (C.O.) と Compréhension écrite (E.O.) の activités について、それぞれいくつかの具体例を見ていく。そして、C.O. と E.O. の activités をグループ作業を通して作成する。 授業は C.O.と E.O.についての講義と、activités のための個人作業やグループ作業で進める。		1. Introduction 2. C.O. と activités 1 3. C.O. と activités 2 4. C.O. と activités 3 5. C.O. と activités 4 6. C.O. と activités 5 7. C.O. と activités 6 8. E.O. と activités 1 9. E.O. と activités 2 10. E.O. と activités 3 11. E.O. と activités 4 12. E.O. と activités 5 13. E.O. と activités 6 14. フランス語教育における Activités のまとめ 15. まとめ (順番と内容は授業の進行状況により変更する。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、課題、授業参加態度、個別作業、グループ作業と発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション各論 I フランス語学各論 a	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1－2 全般的なオリエンテーション。 3－5 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能。 6－8 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能。 9－13 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能。 14 冠詞の体系（4）：無冠詞の機能。 15 まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション各論 II フランス語学各論 b	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1－4 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト。 5－7 動詞の体系（2）：半過去。 8－10 動詞の体系（3）：代名動詞。 11－14 関係節の諸相：制限的關係節、同格的關係節、述語的關係節。 15 まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But du cours</u> : Pouvoir lire et comprendre des textes à contenu politique, sociologique ou économique. <u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux jeunes, collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport à la société française ou aux sociétés francophones. Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels. <u>Méthode</u> : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. <u>Pas de traduction.</u>		1 Présentation du cours 2-14. Lecture selon la méthode exposée ci-contre d'articles d'actualité récente pris dans les journaux et revues pour jeunes. (7. Petit test de vocabulaire) 15. conclusions.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2011.		Petit test de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix (selon le nombre des étudiants).	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir le premier semestre. Dans toute la mesure du possible, nous abordons au 2e semestre des articles des journaux francophones habituels.		1 Bilan du premier semestre. 2-14. Lecture selon la méthode présentée au premier semestre d'articles d'actualité récente. 15 Conclusions générales	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2011.		Examen final : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix (selon le nombre des étudiants).	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。 <講義概要> 今年度は春・秋学期ともに「Expression (Production) orale」をテーマとする。春学期は主に Expression (Production) orale について、これまでの教授法の中での位置づけや exercices のタイプ、activités について考える。Documents authentiques を題材にした Expression orale についても取り上げる予定。 授業では、フランス語や日本語で書かれた文献や資料を参考にして、Expression orale についての理解と基礎知識の習得、フランス語教育の分野における Expression orale の役割と各時代の練習方法について学習する。また、Expression orale のための activités 作成を授業での学習活動の一つとしてグループ作業で行う。授業内での個別作業やグループ作業を効率よく進めるために、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。		1. Introduction pour le FLE 2. Introduction pour le C.E.C.R. 3. Expression orale (=E.O.) と Exercices 1 4. Expression orale と Exercices 2 5. Expression orale と Exercices 3 6. Expression orale と Exercices 4 7. Expression orale と Activités 1 8. Expression orale と Activités 2 9. Expression orale と Activités 3 10. Expression orale と Activités 4 11. E.O. et Documents authentiques (=D.A.) 1 12. E.O. et D.A. 2 13. E.O. et D.A. 3 14. E.O. et D.A. 4 15. Synthèse (順番と内容は授業の進行状況により変更する。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、グループワークと発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。 <講義概要> 今年度は春・秋学期ともに「Expression (Production) orale」をテーマとする。秋学期は主に Expression (Production) orale の exercices や activités 作成をメインに行う。 実際には、フランス語や日本語で書かれた文献や資料、教材などを通して、Expression orale の exercices や activités（できれば、さらに tâches）作成までの過程を学習し、実践として段階別に Expression orale のための exercices や activités 作成を行う。 授業内での個別作業やグループ作業を効率よく進めるために、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。		1. Expression orale 2. Activités 1 3. Activités 2 4. Activités 3 5. Activités 4 6. Activités 5 7. E.O. et activités 1 8. E.O. et activités 2 9. E.O. et activités 3 10. E.O. et activités 4 11. Activités avec D.A. pour la E.O. 1 12. Activités avec D.A. pour la E.O. 2 13. Activités avec D.A. pour la E.O. 3 14. Activités avec D.A. pour la E.O. 4 15. Synthèse (順番と内容は授業の進行状況により変更する。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、個別作業／グループワークと発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語の上級テキストを読むために必要な文法を学習します。単語さえ分かればある程度のテキストは読みこなせる文法力をつけます。最終的には documents authentiques (フランス語の授業のために作られた教材ではなく、フランス人が日常的に使っている様々な資料)を読みこなせるようになればいいと思います。TCF、仏検の準備にもなります。		第 1 回 : ガイダンス 第 2 回 : Va-t-elle tout refuser ? 第 3 回 : D'accord ou pas d'accord 第 4 回 : La tour Eiffel 第 5 回 : Cafés, bistros et brasseries 第 6 回 : Yves Saint Laurent 第 7 回 : Sur le Pont d'Avignon 第 8 回 : Les vitrines de Noël 第 9 回 : Faut-il emmener les enfants au musée? 第 10 回 : La butte Montmartre 第 11 回 : L'aventure de livre de poche 第 12 回 : Manger bio? 第 13 回 : Les langues parlées en France 第 14 回 : Le sel au quotidien 第 15 回 : Etre sportif de haut niveau	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		第 1 回 : ガイダンス 第 2 回 : Les jeunes et le tabac 第 3 回 : Chauffeur de bus à Paris 第 4 回 : Cordon-bleu à Lyon 第 5 回 : Horticulteur à Nice 第 6 回 : Mariniers sur les canaux de France 第 7 回 : Le baccalauréat a fêté ses 200 ans. 第 8 回 : La bande dessinée 第 9 回 : Les nouveaux pères 第 10 回 : La télévision 第 11 回 : Le nouveau tourisme 第 12 回 : Le jeu à l'hôpital 第 13 回 : Le bruit est-il nuisible ? 第 14 回 : Une visite de musée, pourquoi pas ? 第 15 回 : Femme au XXI ^e siècle	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。 その他：全員予習は必須。毎回ランダムに全員を指名して答えてもらう。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動等で欠席する場合には、訳文を指定時刻までにメール等で提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題、つまり授業中に扱った文章の丸暗記では全く点がとれない。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。出席回数が規定回数に達していなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。また、単語テストを毎回冒頭に実施する。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術Ⅰ フランスの美術 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 17世紀から19世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. ブッサン 3. ラトゥール 4. ブーシェ 5. ダヴィッド 6. アングル 7. ドラクローワ 8. クールベ 9. ドーミエ 10. ミレー 11. マネ 12. 印象派-1 13. 印象派-2 14. 印象派-3 15. まとめ *受講者の人数によっては発表してもらうことも考えています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて授業中に指示します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術Ⅱ フランスの美術 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 印象派以降のフランス美術の展開を概観します。 代表的な作家と作品について知るとともに、印象派以降のさまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 講義概要： 毎回一人の作家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. 印象派-1 3. 印象派-2 4. セザンヌ 5. スーラ 6. ゴーギャン 7. ゴッホ 8. ロートレック 9. ナビ派 10. ジャポニスム 11. アールヌーヴォー 12. ルドン 13. エコール・ド・パリ-1 14. エコール・ド・パリ-2 15. まとめ *受講者の人数によっては発表してもらうことも考えています。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて授業中に指示します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの音楽Ⅰ フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期は、20 世紀の音楽とその考え方の変遷を対象とします。 20 世紀は、考え方や価値観が多様化したため、他の芸術同様、音楽の形も劇的に変化していき、人間と音楽との関係、音楽とは何か？といった根本的な問題が問い直されるようになります。そうした人間と音楽の関わりの変化を理解することが目標です。 まず、集中的に聴く対象だった西洋の芸術音楽の在り方が見直されていく様子を見ます。その後、フランスの作曲家ブーレーズや、人と音楽の関係を再考する重要なきっかけを作ったアメリカの作曲家ジョン・ケージや、カナダのシェーファアのサウンドスケープの考え方を学びます。 変化の事例について自分なりにしっかり考えることが望まれます。		1. ガイダンス 2. 西洋の芸術音楽における変化のきざし (1) 3. 西洋の芸術音楽における変化のきざし (2) 4. 人と音 (楽) の多様な在り方 (1) 5. 人と音 (楽) の多様な在り方 (2) 6. ブーレーズ (1) 7. ブーレーズ (2) 8. ジョン・ケージ (1) 9. ジョン・ケージ (2) 10. ケージの考え方を検討 (1) 11. ケージの考え方を検討 (2) 12. サウンドスケープ (1) 13. サウンドスケープ (2) 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献はガイダンスのときに紹介。		期末試験 (70%)、授業時の課題 (20%)、出席 (10%)	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの音楽Ⅱ フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、歴史の原点に戻ります。西洋の芸術音楽が、キリスト教とともに歩み始め、どのように発展してきたか、時代を追って見ていきます。 まず初期キリスト教会と音楽の関係から、時代や社会の変化がどのように音楽の形成に関わってきたかを学びます。 授業中に歌う場合には積極的な参加が望まれます。		1. ガイダンス 2. キリスト教前史 3. グレゴリオ聖歌とその特徴 4. ミサについて 5. 中世の多声音楽の始まり 6. 世俗音楽について 7. 中世からルネサンスへ 8. ルネサンス時代 9. バロック時代とオペラの始まり 10. オラトリオ 11. フランス・バロックの宗教音楽 (1) 12. フランス・バロックの宗教音楽 (2) 13. ドイツ・バロックの宗教音楽 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献はガイダンスのときに紹介。		期末試験 (70%)、授業時の課題 (20%)、出席 (10%)	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの舞台芸術 I フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は、17 世紀に活躍し、今なおフランスでもっとも上演回数が多いことで知られる、フランス最高の喜劇作家モリエール（1622-1673）の生涯と作品を取り上げます。 春学期は、モリエールの生い立ちから始めて、パリで劇団を旗揚げするも失敗した後、長い地方巡業時代を経てパリに帰還し、国王の愛顧を得て劇作家として成功を収めるまでの足跡をたどります。作品としては、いわゆる本格喜劇の三大傑作と言われる『タルチュフ』、『ドン・ジュアン』、『ミザントロプ（人間嫌い）』の分析が主となります。 受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は大変厳しいので、A を揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 授業概要 2. モリエールの幼少時代 3. 学校時代から演劇の道へ 4. 「盛名劇団」の旗揚げから地方巡業へ 5. パリ帰還と定着までの軌跡 6. 『女房学校』 7. 『タルチュフ』（1） 8. 『タルチュフ』（2） 9. 『タルチュフ』（3） 10. 『ドン・ジュアン』（1） 11. 『ドン・ジュアン』（2） 12. 『ドン・ジュアン』（3） 13. 『ミザントロプ（人間嫌い）』（1） 14. 『ミザントロプ（人間嫌い）』（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは適宜プリント。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし、6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの舞台芸術 II フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は、17 世紀に活躍し、今なおフランスでもっとも上演回数が多いことで知られる、フランス最高の喜劇作家モリエール（1622-1673）の生涯と作品を取り上げます。 秋学期は、モリエールが宮廷での上演のために創作し、宮廷音楽家リュリの協力のもと発展させた総合的な舞台芸術形式であるコメディ・バレエの分析を中心に授業を行います。コメディ・バレエは、モリエール独自の喜劇の型紙に、伝統的な宮廷バレエを合体させたものです。 受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は大変厳しいので、A を揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 授業概要 2. 『ミザントロプ（人間嫌い）』以降のモリエール 3. ルイ 14 世と宮廷祝祭（1） 4. ルイ 14 世と宮廷祝祭（2） 5. 宮廷バレエとコメディ・バレエ誕生の経緯（1） 6. 宮廷バレエとコメディ・バレエ誕生の経緯（2） 7. 『うるさがた』 8. 『町人貴族』（1） 9. 『町人貴族』（2） 10. 『町人貴族』（3） 11. リュリとモリエールの確執（1） 12. リュリとモリエールの確執（2） 13. 『病は気から』（1） 14. 『病は気から』（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは適宜プリント。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし、6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス文学史 I フランス文学史 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランスの文学と歴史」(その1) フランスの中世から現代まで、作家たちがどのような文学作品を創造してきたのか、そして読者たちがどのような作品を受容してきたのかを概観することによって、文化形成の歴史の一端を探求します。「文学」ということばそのものも、フランスと日本とでは、もつ意味の広さが異なります。日本の文化・歴史をつねに念頭におきつつ、人間の文化創造の営みを相対的に理解することを目指します。 フランス文学の歴史を、各時代の政治・宗教、あるいは絵画・彫刻・建築・音楽等の芸術思潮と関連づけながら、代表的な文学作品を紹介します。学生諸君は、自らの選択で作家・作品を選び、読みかつ論じることによって、フランス文学に親しみ、作品に照らして自らの思索の方途を見だし、書くことによって論理的思考を涵養してください。 出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。 自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 「文学」ということばのもつ広がり (フランスと日本) 3 「文学史」とは? 文化と歴史 (フランスと日本) 4 フランス中世と文学 (その1) 5 フランス中世と文学 (その2) 6 フランス中世と文学 (その3) 7 フランス16世紀・ルネッサンス (その1) 8 フランス16世紀・ルネッサンス (その2) 9 フランス16世紀・ルネッサンス (その3) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス17世紀・古典主義 (その1) 12 フランス17世紀・古典主義 (その2) 13 フランス17世紀・古典主義 (その3) 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度 (出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス文学史 II フランス文学史 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランスの文学と歴史」(その2) 授業計画に示したように、フランス文学史を時代順に概観すると並行して、詩・演劇・小説・思想などのジャンルについても、その変遷がわかるように、随時、説明を加えます。 授業では、可能な限り、参考書をもとに学生が選んだテーマに即して、個別具体的な作品を論じながら、時代背景と作品生成との関連を解説します。 演劇については録画を、詩と小説については朗読の録音を紹介し、文化史的背景についてはスライド上映などで、説明を補う予定です。 できるだけ多くの文学作品を知り、そのなかから学生諸君が自らの関心に即した作品を選び、親しむことを目標にします。 講義は参考書を用いながら、随時テキストを抜粋したプリントで行います。 出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。 自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1 前期のまとめと後期の展望 2 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その1) 3 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その2) 4 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その3) 5 レポート解説・紹介および試験 6 フランス19世紀・ロマン主義 (その1) 7 フランス19世紀・ロマン主義 (その2) 8 フランス19世紀・象徴主義 (その1) 9 フランス19世紀・象徴主義 (その2) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス20世紀・両次大戦間の文学 12 フランス20世紀・実存主義 13 フランス20世紀・文芸思潮 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度 (出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの文学 I フランス文学各論 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「旅と神話 — 19 世紀フランス文学における「オリエント」の表象」(その1) 19 世紀フランス文学、とりわけロマン主義文学においては、さまざまな神話的テーマが展開され、作品を創造する動機や骨組みをなしています。大地母神から聖母マリアにいたる「母神」あるいは「救済の女神」の神話、「呪われた種族カイン」あるいは「さまよえるユダヤ人」の神話などが、ユゴーやバルザック、そしてゾラにいたる文学作品を特徴づけています。 具体的作品としては、ネルヴァル『東方紀行』(1852)の一部を読みます。エジプト(カイロ)、シリア、そしてトルコ(コンスタンチノーブル)を旅した作家の足跡を追いつつながら、旅の記述が神話的空間へとずれこみつつ展開してゆく記述のおもしろさを読み解きます。 19 世紀フランス文学におけるマリア信仰、諸教混淆の女神神話、等を、併せて紹介していきます。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1: 19 世紀フランスの文学と社会 (序論) 2: 文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマ 3: 「オリエント」の表象 (1) 4: 「オリエント」の表象 (2) 5: コンスタンチノーブル (『東方紀行』) (1) 6: コンスタンチノーブル (『東方紀行』) (2) 7: コンスタンチノーブル (『東方紀行』) (3) 8: シバの女王について (1) 9: シバの女王について (2) 10: シバの女王について (3) 11: ネルヴァルにおける女性神話 (1) 12: ネルヴァルにおける女性神話 (2) 13: ネルヴァルにおける女性神話 (3) 14: まとめと展望 (バルザックやゾラの小説における神話的テーマについて) 15: 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァル 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの文学 II フランス文学各論 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「旅と神話 — 19 世紀フランス文学における「オリエント」の表象」(その2) 神話的テーマの表象は、文学と同時期あるいはむしろ先行する、絵画・彫刻・建築、等に顕著に見られます。18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけて流行した、古代ギリシア・ローマの神話的表象を尊重する芸術思潮は、一般に「新古典主義」とよばれています。ダヴィッドの大画面の絵「ナポレオンの戴冠式」(1808)を見ると、ナポレオンの「皇帝即位」も、こうした新古典主義思潮の社会的表現の一部にすぎなかったのではないかとさえ考えられます。授業では、絵画・建築などを参考にしつつ、文学作品に表現された神話的テーマを探求してゆきます。 具体的作品としては、ネルヴァルの『東方紀行』の一部を読みます。 19 世紀フランス文学におけるマリア信仰、諸教混淆の女神神話、等を、併せて紹介していきます。 主題の延長上に、「人類の叙事詩(あるいは歴史)」と「人類に普遍の神話(あるいは神話の普遍性)」というテーマがあり、典型的にはユゴーの長編叙事詩集『諸世紀の伝説』(1859-1883)に表現されるので、いくつかの詩篇を紹介します。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1: 19 世紀フランスの文学と社会 (再論) 2: 文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマ 3: 「オリエント」の表象 (1) 4: 「オリエント」の表象 (2) 5: 「オリエントへ」(『東方紀行』) (1) 6: 「オリエントへ」(『東方紀行』) (2) 7: 「オリエントへ」(『東方紀行』) (3) 8: イシス神話について (1) 9: イシス神話について (2) 10: イシス神話について (3) 11: ネルヴァルにおける女性神話 12: ユゴー『諸世紀の伝説』読解 13: ユゴー『諸世紀の伝説』読解 14: まとめと展望 (ユゴーの神話的テーマについて) 15: 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァル 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化各論Ⅰ フランス文学各論 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語で書いた作家たちの有名な一節、あるいは、まったく有名ではないけれど秘かな魅力に満ちた一節など、さまざまな抜粋テキストを通して、16 世紀から 20 世紀までのフランス文学に少しづつ触れてゆきます。自伝、エッセイ、日記などが中心になりますが、小説や詩作品も扱います。 テキストの背後にはどのような時代背景があったのか、どのような事件や社会問題があったのかなど、基本的なフランスの歴史や各世紀の雰囲気も同時に学んでゆきます。 一人の作家について 4～5 回の講義をします。最初に簡単な紹介をし、その後、翻訳も参照しながらフランス語のテキストを読み、表現の工夫、フランス語で読まなければわからない面白さ、作家の声の独自性、テキストの効果や特徴などを考えてゆきます。		1. イントロダクションとアンケート (受講を希望する人は、必ず出席してください) 2-15. 以下の作家たちの中から、受講者のアンケートを参考に、半期で 3-4 人を論じます。 ・モンテーニュ* ・パスカル ・ボードレー ・ジッド ・ブルトン* ・ルーセル* ・サルトル* ・ジュネ* ・フランツ・ファノン* ・バルト* ・ナタリー・サロート ・ル・クレジオ ・ルソー* ・スタンダール* ・ブルースト ・コレット* ・バタイユ ・カミュ* ・ボーヴォワール* ・レリス* ・レーモン・クノー* ・ジョルジュ・ペレック* ・クロード・シモン ・マリー・ンディアイ (*は 2008~2010 年の講義で実際に扱った作家です)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布します。 参考文献：『フランス文学史』（東京大学出版会） 『新版・フランス文学史』（白水社）		出席状況とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで、具体的に論じてもらいます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化各論Ⅱ フランス文学各論 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的には春学期と同様の進め方をしますので、春学期とのセット履修が望ましいです。 通年で受講することによって、作家同士のつながりや影響関係など、フランスの作家たちの系譜をより生き生きと感じることができるでしょう。		春学期を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布します。		出席状況とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで、具体的に論じてもらいます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をきちんと話したり書いたりできるようになりたかったら、まずはきちんと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。 今年度は、フランス 16 世紀の大知識人で、驚異的な人文主義的博識と自己の理想を、滑稽な物語形式を通じて展開したフランソワ・ラブレーの作品『ガルガンチュワ物語』（1534）を取り上げます。奇想天外なエピソードで読者を引きつけつつ、そこにラブレーは、痛烈極まる宗教・政治・社会批判を盛り込みました。 16 世紀のフランス語は、皆さんにとってはそれこそ『源氏物語』を読むようなものでしょうから、テキストは現代語訳されたものを用います。それでも文化的な知識の面でつまづく可能性はあります。文化を学ばずしてフランス語がきちんと理解できて使えるようになることはありえませんが、それも学習の一環ですが、なるべく文化面に関しては丁寧な解説を心がけたいと思います。		1. 授業概要の説明、著者、作品の紹介 2～15. 講読	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。		出席点、平常点、学期末定期試験を総合的に勘案して評価。ただし、一度も授業中に訳を担当しなかった者は、試験の成績如何に関わらず F 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行わない。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
19 世紀後半の大衆小説家 Jules Verne の中編小説 <i>Les forceurs de blocus</i> を読む（翻訳はない）。授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう（前回授業時に指名する）。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず 1 回目の授業に出席すること。 仏和辞書についての注意:学習者用の辞書（Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど）、電子辞書では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典（大修館書店）やロワイヤル仏和中辞典（旺文社）などの中辞典が必要である。特に担当者は学習用辞書だけで予習し、「辞書に載っていませんでした」と言い訳することは許さない。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。		1 回目：授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。 2 回目：講読。 3：続きを読む。 4：続きを読む。 5：続きを読む。 6：続きを読む。 7：続きを読む。 8：続きを読む。 9：続きを読む。 10：続きを読む。 11：続きを読む。 12：続きを読む。 13：続きを読む。 14：続きを読む。 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jules Verne, <i>Les forceurs de blocus</i> , Librio, 2005.		定期試験および平常点（出席および予習の程度）。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、出席・試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。		1 回目：春学期の続きを読む。 2：続きを読む。 3：続きを読む。 4：続きを読む。 5：続きを読む。 6：続きを読む。 7：続きを読む。 8：続きを読む。 9：続きを読む。 10：続きを読む。 11：続きを読む。 12：続きを読む。 13：続きを読む。 14：続きを読む。 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。		1. ガイダンス＋テキスト配布＋訳読 2・15. 訳読	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（出席および毎回の発表）と定期試験。授業中に課題を出す可能性もあります。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（出席および毎回の発表）と定期試験。授業中に課題を出す可能性もあります。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス詩を暗唱しよう」 言語の運用能力を高めるには、まずは文章を暗記することが基本です。ことばのリズム、発音、抑揚をまるごと暗記しましょう。暗唱するには、その努力に見合う美しいフランス語を選びましょう。フランス語の粋（すい）は詩にあります。 フランス詩は、声に出して読むために、暗唱するためにできています。美しい詩はおぼえやすくできています。詩はことばの音楽です。暗唱することによって、フランス詩の韻律を体感しましょう。「詩的快楽は（発声する）筋肉の歓び」(André Spire)です。 短くてやさしい抒情詩から、おぼえにくい長文の叙事詩へと、段階を追って進みます。フランス詩法や韻律を解説し、フランス詩をもとにフォーレやドビュッシーが作曲したフランス歌曲を紹介します。作曲家たち、あるいは歌手たちがどのように詩を解釈し、韻律を曲にしたて、そして歌っているかを分析します。（歌の才能に恵まれた人は自ら歌ってみてください、強制はしません。） 半年間でできるだけ多くの詩を暗記しましょう。		（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。） 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 フランス詩について（暗唱 Verlaine 1） 3 フランス詩法について 1（暗唱 Verlaine 2） 4 フランス詩法について 2（暗唱 Apollinaire 1） 5 詩の解説と暗唱 Baudelaire 1 6 詩の解説と暗唱 Baudelaire 2 7 詩の解説と暗唱 Baudelaire 3 8 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 9 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 10 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 1） 11 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 2） 12 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 1） 13 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 2） 14 詩の暗記と暗唱について（まとめ） 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（出席と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス詩を読もう」 フランス詩を暗唱することによって、韻律を体感し、詩的快楽を堪能してもらいます。 詩を暗唱するのと並行して、対象を徐々に短い抒情詩から長い叙事詩へと移行し、詩の物語性（あるいは神話的構造）に着目し、「詩を読む」てほどこきをします。 詩句における語の意味の広がり、語義の多層性、詩句の曖昧さと想像力、散文と韻文の違い、等々について、考えながら、Hugo, Nerval, Baudelaire, Apollinaire 等の代表的な詩を読み、そして聞きます。 詩句はさまざまに翻訳することができます。作曲家が詩句を解釈して音楽をつけたように、フランス詩を日本語に翻訳する場合にも、幾通りもの翻訳が可能であり、訳す楽しさがあります。翻訳するためには、正確な解釈が必要です、しかし、その解釈は一つではなく、翻訳に一つの正解はありません。できるだけ正確に、しかも自分のことばによる翻訳を楽しみましょう。（歌うためにも詩句の正確な解釈が必要です。） フランス詩を楽しむ機会はなかなかないでしょうから、授業への積極的な参加（出席と発表）を期待します。		（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。） 1 フランス文学における抒情詩と叙事詩 2 詩を読む Victor Hugo 1 3 詩を読む Victor Hugo 2 4 詩を読む Victor Hugo 3 5 詩を読む Victor Hugo 4 6 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 1 7 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 2 8 詩を楽しむ Gérard de Nerval 1 9 詩を楽しむ Gérard de Nerval 2 10 詩を楽しむ Gérard de Nerval 3 11 詩を楽しむ Apollinaire 1 12 詩を楽しむ Apollinaire 2 13 詩を楽しむ Apollinaire 3 14 詩と解釈、翻訳の問題（まとめ） 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（出席と発表）、課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre. Contenu : Nous lirons ensemble un texte de Daniel Pennac : <i>L'oeil du loup</i>. Ce sera pour nous l'occasion de parcourir l'Alaska, l'Afrique en compagnie de deux héros, un petit garçon et un loup, qui vont nous faire partager toute sorte d'aventures.		Lecture suivie du livre <i>L'oeil du loup</i>, une histoire choisie dans la littérature pour enfant, celle d'un loup qui n'y voit que d'un oeil et d'un petit garçon à l'oeil fermé, qui tout en se regardant l'un l'autre se racontent leurs aventures, leurs joies, leurs malheurs. Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ». Attention : nous continuerons la lecture de <i>L'oeil du loup</i> pendant le deuxième semestre.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre. Contenu : Nous lirons ensemble un texte de Daniel Pennac : <i>L'oeil du loup</i>. Ce sera pour nous l'occasion de parcourir l'Alaska, l'Afrique en compagnie de deux héros, un petit garçon et un loup, qui vont nous faire partager toute sorte d'aventures.		Nous continuerons la lecture de <i>L'oeil du loup</i> commencée en avril avec la ferme intention d'aller jusqu'au bout de cette histoire très émouvante. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus. Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Puis, nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant "les grandes vacances". Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure communication. Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaiterais pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt. Cependant, les nouveaux étudiants qui souhaiteraient suivre ce cours seulement à partir du mois de septembre sont invités à venir me voir début juillet.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
ここであつかう <i>Le bel appétit de monsieur de Balzac</i> は、人生を愛し、食を愛し、観察することを愛し、「目の美食」という表現を生み出したバルザックに対するオマージュです。彼は「飲むと食べるとは異なった、しばしば対立する特質を要求する。人間はこれほど高貴な性癖を併せ持つにはあまりに不完全である。食通と酒通の特質を同じぐらいに併せ持つ人は異才と言うべきである」と書いています。編者サン・ブリの解説と、バルザック作品の引用、そしていくつかのレシピを取り混ぜながら読んで行き、現代フランス料理のもととなった 19 世紀の食と、フランス人の特性のひとつである社交、美しい自然や人間の営みを、画像を交えながら考察します。 出席者数によりますが、発表は訳読と関連事項に関するプレゼンの双方の可能性がありま		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1. La gourmandise est le péché des moines vertueux 2. Le plaisir de conjuguer les mets et les mots 3. Visionnaire de la réalité 4. Le roi des gourmands 5. Évolution du goût et découverte de bouche 6. Un homme qui a crânement compris son temps 7. De l'art de bien manger 8. Le festin des rois dévorants : Le pain 9. La soupe et les œufs 10. Les champignons et la charcuterie 11. Les viandes et les garnitures 12. Les poissons et les fruits de mer, les desserts 13. La cuisinière, l'intrigue et le héros 14. Dîner, c'est exister aux yeux du monde 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムで配布します。		授業での発表、毎週課される小作文、まとめのテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
「うまし国フランス」の発祥は、中央部に位置し、気候が穏やかで景色が良く、「六角形のフランス」でつくられるほとんどすべての種類の農産物が生産される、トゥレーヌ地方でありましょう。トゥールで生まれ、パリで教育を受けたバルザックは、22 歳で徒歩旅行をして、その美しさに目覚め、トゥレーヌをわが故郷として選び取ります。一方、流行作家としてダンディーな生活を送った彼は、貴族の食卓や、ちょうど隆盛期を迎えたレストランやカフェなどをめぐり、最高の味と接待とを堪能します。「君が何を食べているか言ってみな、君がどういう人か当てて見せよう」と言ったのは、彼と同時代のブリア・サヴァランですが、バルザックはさらに先に進んで、食と人々の愛憎や政治のロマンを混在させて描きます。 春学期の総論に続き、各論として地方とパリを異オバルザックとともに追いつめます。 出席者数によりますが、発表は訳読と関連事項に関するプレゼンの双方の可能性がありま		以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1. J'aime la Touraine comme un artiste aime l'art 2. La « gastronomie de l'âme » 3. Les « pourlécherie » tourangelles 4. Le vin de Loire 5. « Je n'aime pas qu'on ne boive que de l'eau » 6. L'hédoniste 7. Les longues nuits de Saché... 8. ...et de Passy 9. Les « vertus » du café 10. Des autres excitants 11. Le gastronome en voyage 12. La table, véritable lien social 13. Restaurants et cafés 14. Le temple de la bonne chère 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムで配布します。		授業での発表、毎週課される小作文、まとめのテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
「おでかけの際には奥様の美しさを引きたてる不美人をレンタルいたします……」 あらゆるものが売り買いされるパリの街で、商人デュランド氏が思いついたビジネスとは……？ 春学期はエミール・ゾラの短篇 <i>Les Repoussoirs</i> 「引き立て役」を読みます。短い作品なので最終回までに余裕をもって読み切れるでしょう。インターネット上に全文を録音した音声資料がありますので、発音や聴きとり練習に活用してください。 翻訳を参照してもかまいませんが、授業および試験では、構文がきちんと取れているか、指示語や代名詞の指すものを理解しているか、文章の論理をきちんと追えているか等、翻訳を覚えてきただけでは対処できないことが問われます。		1. フランス語を読むときのポイント、単語の覚え方のコツ、辞書の引き方を説明します。必ず辞書を持って出席してください。 2～15. 講読。前回すすんだ箇所の単語テスト。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業でプリント配布します。		授業中の発表、小テスト、持ち込みなしの学期末試験。初回の授業に必ず出席すること。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期はヴィリエ・ド・リラダン『残酷物語』より短篇 <i>La Machine à gloire</i> 「栄光製造機」を読みます。 春学期のテーマが「美しさ」という観念をめぐるものだとすると、秋学期は、人間社会においていかにして「栄光」がつくりだされるのかを揶揄した作品を読み解いてゆきます。		1. 初回から読みはじめますので必ず辞書を持って出席してください。 2～9. 講読。前回すすんだ箇所の単語テスト。 10. ヤン・シュヴァンクマイエルの短篇映画『陥し穴と振り子』（1983）。 11～15. 講読。前回すすんだ箇所の単語テスト。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業でプリント配布します。		授業中の発表、小テスト、持ち込みなしの学期末試験。初回の授業に必ず出席すること。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス地域論Ⅰ フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。本講義は、フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考えることを目的とする。 フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度を理解した上で、それがもつ意味を、その成立の経緯を通して学ぶ。まず、旧プロヴァンスを基本的な否定する地方制度として誕生した現代のデパルتمانの成立の経緯とそれに託された意味を考える。 次に、広域の地方としてのレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。レジオンに相当する制度は我が国には存在しないが、我が国で議論されている道州制にそれと共通する要素が見出される。 フランスのコミューンは我が国の市町村に対応する基礎的自治体であるが、両者はある意味で全く逆の方向へ向かって変化してきた。そのことを念頭においてコムューヌの実態を学び、身近な地域の枠組みのあり方について考える。		1. 講義概要の説明 2. 地域の枠組み 3. 海外フランス 4. プロヴァンスからデパルトマンへ1 5. プロヴァンスからデパルトマンへ2 6. レジオンの誕生1 7. レジオンの誕生2 8. 中間のまとめ 9. 基礎自治体としてのコムューヌ 10. コムューヌの合併1 11. コムューヌの合併2 12. コムューヌの連合1 13. コムューヌの連合2 14. コムューヌの連合3 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験（1/3）、レポート（1/3）および出席（1/3）によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス地域論Ⅱ フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐら問題について考える。 講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。 フランスの大都市郊外部などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の再生に向けた「都市政策」の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。 現代におけるフランスのコムューヌの存続志向の大きさを念頭において、都市の歴史を振り返り、その地誌的継承性および中世のコムューヌ運動について考える。 都市の景観と住まい方という視点から、フランスの都市の特徴を学ぶ。 地域と商業中心地の変化という世界的な現象がフランスにおいてどのような形で現われ、それに対してどのような取り組みがなされているかを学ぶ。		1. 講義概要の説明 2. フランスの都市政策1 3. フランスの都市政策2 4. フランスの都市政策3 5. フランスの都市政策4 6. フランスの都市政策5 7. 中間のまとめ 8. フランスの都市の歴史1 9. フランスの都市の歴史2 10. フランスの都市空間と住まい1 11. フランスの都市空間と住まい2 12. フランスの地域と商業中心1 13. フランスの地域と商業中心2 14. フランスの地域と商業中心3 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
都市の荒廃地区と都市政策テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験（1/3）、レポート（1/3）および出席（1/3）によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの歴史 I フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代から現代までの各時代を概観します。		1. 授業ガイダンス 2. 古代 1 3. 古代 2 4. 中世 1 5. 中世 2 6. 中世 3 7. 近世 1 8. 近世 2 9. 近世 3 10. 近世 4 11. 19-20 世紀 1 12. 19-20 世紀 2 13. 19-20 世紀 3 14. 19-20 世紀 4 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献はそのつど教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの歴史 II フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史上の具体的なテーマを取り上げて論じます。史料を読んだり、スライドや DVD などを見る時間も設ける予定です。取り上げるテーマや詳細な授業計画は最初のガイダンスで説明します。		1. 授業ガイダンス 2～5. テーマ 1 6～9. テーマ 2 10～13. テーマ 3 14～15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅰ フランスの政治 a	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 重商主義以後のフランスの政治経済の動向と工業化の進展についての歴史を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。 <u>講義概要</u> フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス政治経済の歴史的背景を遡る。とくに18世紀以後第二次大戦前までのフランスの政治経済発展史について講義する。		1. 講義に関する一般的注意 2. 政治・経済用語の基礎知識 3. 現代フランス政治経済概観 4. 経済発展と工業化についての基礎知識 5. 重商主義時代のフランス経済 6. フランス大革命と産業革命 7. フランス産業革命概観 8. フランスの農業と産業革命 9. フランスの工業化と人口問題 10. フランスの天然資源問題と工業化 11. フランスの保護主義と植民地経営 12. フランスの金融制度の発展と工業化 13. フランス工業化の社会的諸条件 14. フランス企業経営者の社会的地位 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
パワーポイントを使用して講義する。参考文献：服部春彦、谷川稔編著『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993）		定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅱ フランスの政治 b	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 第二次大戦後のフランス政治経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。 <u>講義概要</u> 第二次世界大戦後のフランス政治経済の成長と変遷を、経済計画・国有化政策・民営化などの流れに沿って説明する。		1. 戦後フランスの経済：基礎経済統計 2. 戦後フランスの政治経済概観① 3. 戦後フランスの政治経済概観② 4. フランスの経済計画と国有化政策 5. EEC発足とフランス経済の開放化 6. ドゴール＝ボンピドゥー時代の経済政策 7. ジスカールデスタンとバール・ブラン 8. ミッテラン時代の経済と経済政策① 9. ミッテラン時代の経済と経済政策② 10. ミッテラン時代の経済と経済政策③ 11. シラク時代の経済と経済政策① 12. シラク時代の経済と経済政策② 13. フランス経済の現状とサルコジ大統領の経済政策 14. フランス政治経済の現状 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
統計資料などを随時配布する。 参考文献：渡邊啓貴著『フランス現代史』（中公新書、1998）		定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムの特徴について学ぶことも有益だと言えるでしょう。本講義は、フランス政治についての基礎的な知識の習得を目的とします。具体的には、現在のフランスの政治システムが形成された歴史的背景を概観した上で、現状の政治制度について学びます。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~3. フランス革命から第二帝政まで 4~5. 第三共和制からヴィシー政府 6~7. 第四共和制 8. 第五共和制の成立 9. 第五共和制下における政権交代 10~14. 第五共和制の政治制度 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの政治経済 II フランスの政治 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスは、ヨーロッパ統合の開始当初から今日まで、統合において常に重要な役割を担ってきました。また、統合の進展に伴い、ヨーロッパは、国際社会におけるフランスの立場を強化する基礎として位置づけられ、フランスの対ヨーロッパ政策は国内の政策との関わりを一層強めているのが現状です。本講義では、戦後から今日に至るまでのフランスの対外政策やヨーロッパ統合という課題に対するフランスの対応を概観します。 なお、履修者数によっては発表をしてもらい、フランスの対外政策についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2. 第四共和制期 3~4. ドゴール時代 5~6. ポンピドゥー時代 7~8. ジスカールデスタン時代 9~10. ミッテラン時代 11~12. シラク時代 13~14. 現在 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）とレポートまたは発表（50%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代思想 I フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、20 世紀後半のフランス思想を年代順に講義します。最初にサルトルやカミュを中心に「実存主義 existentialisme」について述べ、次に 1950 年代に起こった「構造主義 structuralisme」を見ていきます。現代思想の流れを理解し、自分の考え、あるいは生き方を振り返ることがこの講義の目的です。「自分の頭で考える」ことが最も大切です。 授業は講義だけでなく、参加者とのディスカッションの形でも行いますので、積極的な参加が求められます。 出来る限り分かりやすい授業にしたいと思っています。 この分野は多くの著作が翻訳されており、図書館で簡単に参照できるので、ぜひ図書館を利用して本を読むようにしてください。 なおこのシラバスは目安であり、進み具合により変更される事があります（内容は変わりません）。		1 現代思想を準備した思想家たち フロイト（1） 2 現代思想を準備した思想家たち フロイト（2） 3 現代思想を準備した思想家たち ニーチェ（1） 4 現代思想を準備した思想家たち ニーチェ（2） 5 現代思想を準備した思想家たち マルクス（1） 6 現代思想を準備した思想家たち マルクス（2） 7 実存主義（existentialisme）について（1）サルトルという人間 8 実存主義について（2）小説『嘔吐』における言葉と身体 9 実存主義について（3）『存在と無』の思想 10 実存主義について（4）マルクス主義への旋回 11 ソシュールの「一般言語学」の思想と構造主義（1） 12 ソシュールの「一般言語学」の思想と構造主義（2） 13 構造主義（1）ミシェル・フーコーの「物と言葉」（1） 14 構造主義（2）ミシェル・フーコーとセクシュアリティ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリント使用。授業の際配布します。 参考文献としては、サルトルの『存在と無』『実存主義とはヒューマンイズムである』『嘔吐』等が挙げられます。		平常点と期末試験の成績による	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代思想 II フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続きで、ポスト構造主義（poststructuralisme）を扱います。主に哲学者ジャック・デリダ、精神分析学者ジャック・ラカンを取り上げ、文学批評、精神分析、哲学などの現状を学び、そこから出発して現代社会の様々な問題を考えます。 出来る限り分かりやすい授業にしたいと思っています。 講義だけでなくディスカッションも重視するので、積極的に参加してください。 文献については多くの著作の邦訳がありますが、出来れば原文の読解も試みたいと考えています。日常的なフランス語とは違う論理的なフランス語にも接していただきたいと思います。 なおこのシラバスは目安なので、参加者の理解の度合いによって進度の変更される場合があることをお断りしておきます。		1 ジャック・ラカンの「鏡像段階」論（1） 2 ジャック・ラカンの「鏡像段階」論（2） 3 ポーの小説「盗まれた手紙」のラカンによる読解をめぐって（1） 4 同（2） 5 同（3） 6 同（4） 7 結論—ラカン理論とはどのような理論か？ 8 デリダ理論概説（1） 9 デリダ理論概説（2） 10 デリダ理論概説（3） 11 デリダを読む（未邦訳 Glas の一節を読む。1） 12 デリダを読む（未邦訳 Glas の一節を読む。2） 13 同（来るべき民主主義について 1） 14 同（来るべき民主主義について 2） 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは主にプリントを使用します。 参考書としては現代思想の冒険シリーズ・福原泰平著『ラカン』（講談社） 同・高橋哲哉著『デリダ』（講談社）などが挙げられます。		平常点と期末試験の成績による	

08 年度以降	現代フランス論 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日仏比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。		1. ガイダンス 2. フランス政治史① 3. フランス政治史② 4. 現代フランスの政治システムの概要 5. 半大統領制 6. 議会 7. 官僚制 8. 政党システム① 9. 政党システム② 10. 選挙 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. 中央-地方関係 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義はパワーポイントを使って行います。参考文献は講義の際に指示します。		平常点と期末試験	

08 年度以降	現代フランス論 II	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、年金・医療保険などのフランスの社会保障システムの概要と最近の改革の動向を学習します。 日本と同様に、フランスも人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面しています。また、フランスの社会保障システムには日本の制度との共通点が少なくありません。経済のグローバル化や人口の高齢化のなかでフランスがいかなる対策を採ってきたのかを学ぶことを通じて、先進諸国における今後の社会保障改革のあり方について考察します。なお、社会保障制度に関する基礎知識は前提としません。 最初にフランスの社会保障システムの概要と、高度成長期が終わって以降の経済と人口の動向について解説します。その後で個別の社会保障制度として、年金・医療保険・雇用政策（失業保険や若年者の雇用対策）・公的扶助（生活保護）・家族政策（児童手当など）を扱う予定です。		1. ガイダンス 2. フランスの社会保障システムの概要 3. 経済と人口の変化 4. 年金制度入門 5. フランスの年金制度改革の動向 6. 医療保険制度入門 7. フランスの医療保険制度改革の動向 8. 雇用政策入門 9. フランスの雇用政策改革の動向 10. 公的扶助（生活保護）入門 11. フランスの公的扶助改革の動向 12. 家族政策入門 13. フランスの家族政策改革の動向 14-15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。参考文献は講義の際に指示します。		平常点とレポート	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会各論 I フランス文化・社会各論 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Diversité de la francophonie : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française. Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie. Le contenu du cours pourra varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !		1. Introduction générale 2-3. Géographie de la N.-C. et des autres territoires. 4-6. l'expansion européenne à partir du XV ^e siècle et l'arrivée des Français dans le Pacifique. 7-9. la N.-C. au XIX ^e : 1) Une rencontre violente 2) les condamnés 3) les colons français 4) les vagues d'immigration. 10-11. la N.-C. au XX ^e : les deux guerres mondiales et l'arrivée des Américains. 12. la N.-C. au XX ^e : l'après-guerre et le boom du nickel. 13-14. Données économiques actuelles de la N.-C. 15 conclusion du premier semestre.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films. Voir le site internet de l'Université Laval sur la francophonie.		Variable selon le nombre des étudiants : petits tests, grand test, exposés ou rapport.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会各論 II フランス文化・社会各論 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir ci-dessus la présentation du cours.		1. Introduction 2. Données démographiques actuelles de la N.-C. 3-4. La société en N.-C. : données et problèmes. 5-6. La question politique en N.-C. : de la colonisation à l'indépendance ? 7-8. Situation actuelle de Vanuatu. 9-10. Situation actuelle de Wallis et Futuna. 11-13. Situation actuelle de la Polynésie française. 14. La question de l'indépendance de la Polynésie française. 15. Conclusions générales.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films.		Variable selon le nombre des étudiants : petits tests, grand test, exposés ou rapport.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代フランスにおける社会保障改革に関する平易な仏語テキストを輪読します。講義の目的は、フランスにおける最近の社会保障改革の動向を理解すること、および政治・経済・人口学に関するフランス語を習得することです。なお、社会保障制度に関する基礎知識は前提としません。 春学期は年金制度改革に関する短い論文から読み始めます。初回の講義において専門用語の解説を行います。続いてとり上げるトピックや授業の進行方法については受講者の希望に応じて決める予定です。 テキスト <i>Cahiers français</i>, « la protection sociale : quels débats ? quelles réformes ? », n° 358, septembre-octobre 2010. Bruno Palier, <i>La réforme des retraites</i>, Paris, PUF, « Que sais-je ? », 3^e éd., 2010. Bruno Palier, <i>La réforme des systèmes de santé</i>, Paris, PUF, « Que sais-je ? », 5^e éd., 2010.		1. ガイダンスと基本用語の解説 2・14. テキスト講読 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点とレポート	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では現代フランスにおける社会保障改革に関する平易な仏語テキストを輪読します。講義の目的は、フランスにおける最近の社会保障改革の動向を理解すること、および政治・経済・人口学に関するフランス語を習得することです。なお、社会保障制度に関する基礎知識は前提としません。 秋学期は医療制度改革に関する文章から読み始めます。初回の講義において専門用語の解説を行います。続いてとり上げるトピックや授業の進行方法については受講者の希望に応じて決める予定です。 テキスト <i>Cahiers français</i>, « la protection sociale : quels débats ? quelles réformes ? », n° 358, septembre-octobre 2010. Bruno Palier, <i>La réforme des retraites</i>, Paris, PUF, « Que sais-je ? », 3^e éd., 2010. Bruno Palier, <i>La réforme des systèmes de santé</i>, Paris, PUF, « Que sais-je ? », 5^e éd., 2010.		1. ガイダンスと基本用語の解説 2・13. テキスト講読 14・15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点とレポート	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史上の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。前期は古代・中世から 10 章ほど選んで読みます。		1. 授業ガイダンス 2～14. 講読 « Souviens-toi du vase de Soissons... » 他 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史上の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。後期は近世から 10 章ほど選んで読みます。		1. 授業ガイダンス 2～14. 講読 « La poule au pot pour tous les Français ! » 他 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。 講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期に取り上げる遺産は3件に絞り込む予定である。 本年度取り上げる世界遺産は前年度取り上げたものとは異なる。 講義は、受講生が予め割り当てられた文献の部分について発表し、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。		1. 講義概要の説明 2. サン・サヴァン・シュール・ガルタンブ大修道院教会 3. サン・サヴァン・シュール・ガルタンブ大修道院教会 4. サン・サヴァン・シュール・ガルタンブ大修道院教会 5. サン・サヴァン・シュール・ガルタンブ大修道院教会 6. シャルトル大聖堂 7. シャルトル大聖堂 8. シャルトル大聖堂 9. シャルトル大聖堂 10. 中間のまとめ 11. パリのセーヌ河岸 12. パリのセーヌ河岸 13. パリのセーヌ河岸 14. パリのセーヌ河岸 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果（60％）と授業中の発表（40％）によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。 講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は3件に絞り込む予定である。 本年度取り上げる遺産は前年度取り上げたものとは異なる。 講義は、受講生が予め割り当てられた文献の部分について発表し、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。		1. 講義概要の説明 2. フォントネ大修道院 3. フォントネ大修道院 4. フォントネ大修道院 5. フォントネ大修道院 6. ヴェルサイユ宮殿と庭園 7. ヴェルサイユ宮殿と庭園 8. ヴェルサイユ宮殿と庭園 9. ヴェルサイユ宮殿と庭園 10. 中間のまとめ 11. ストラスブールのグランド・イル 12. ストラスブールのグランド・イル 13. ストラスブールのグランド・イル 14. ストラスブールのグランド・イル 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果（60％）と授業中の発表（40％）によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
今日のフランスは世界有数の農業大国として知られています。しかしながら、第 2 次大戦以前のフランスは、農民の比重は高かったものの、生産性が低いという問題を抱えていました。本講義では、両大戦間期から今日に至るまでのフランスの農業の発展と農村社会について、フランス語のテキストを通して皆さんとともに探っていきます。 本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読み、文章の要旨を把握する力を鍛えることにあります。テキストのフランス語は難解ではありませんので、簡単に予習をしてきてください。 【注意】授業では、毎回 2~3 行の日本語訳を課題として提出してもらいます。これが評価の 70%を占めるので、出席回数が少ないと単位は取れません。辞書は忘れずに持ってきてください。 また、授業中は担当者を決めずにランダムに翻訳を担当してもらいます。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~3. 第 1 次大戦後の復興期 4~7. 農村から都市へ 8~9. 大恐慌 10~12. 農民と政治 13. 1930 年代の機械化 14. 農業信用金庫 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業中の翻訳の担当（10%）、課題提出（70%）、小テスト（20%）で評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様にフランスの農業に関するテキストを読みます。内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。 【注意】授業では、毎回 2~3 行の日本語訳を課題として提出してもらいます。これが評価の 70%を占めるので、出席回数が少ないと単位は取れません。辞書は忘れずに持ってきてください。 また、授業中は担当者を決めずにランダムに翻訳を担当してもらいます。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 農村の生活 5~8. ヴィシー期の農村 9~11. 第 2 次大戦後の復興期 12~14. 農民から農業経営者へ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業中の翻訳の担当（10%）、課題提出（70%）、小テスト（20%）で評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語の読解力を高める。 フランス語で書かれた時事的な記事にしたしむ。 テキストとしては主としてフランスの中学生向けの新聞（日刊紙）から最新の記事を持ちいる。 各自が事前に配布された文章を読み、必要なことから調べ、授業で確認をおこなう、という作業を基本とする。 特に5月中旬（5月12日の予定）、6月初旬（6月9日の予定）、6月下旬（6月30日の予定）には課題の提出を求める。課題の内容・形式等については第1回目の授業で説明をおこなう。計3回の課題の提出をおこたったものは、評価を自動的にFまたはX（3年生）、FGまたはX（4年生）にする。 時事的な文章に限らないが、当該外国語の能力以上に（母語でそなわっているはずの）教養・知識・判断力が問題となってくる。伝達媒体にはこだわらないから、なるべく多くの情報に接するようにこころがけてほしい。		第1回目の授業で授業の進め方、課題、定期試験等について詳しく説明するので、履修予定者は必ず出席すること。なんらかの事情で出席できない場合は、出席した者から説明を聞いておくこと。これに限らず、「知らなかった」ということは以後一切理由として認めないので重々承知しておくこと。 使用するテキストについての希望もうかがい、なるべく多くの受講者が興味を持てるものにしたいと考えている。 受講者の人数・レベルにより授業内容は大きく変わることになるが、意欲があり努力をする学生である限り現時点の学力にはこだわらない。遠慮せず履修して頂きたい。また、フランス語の力に自信があると自任する学生は、まわりのひとたちのささえになっほしい。教えるということが学ぶ上での最上の方法であることは多くの方がご存じのことと思う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは担当者が用意する。各自インターネットダウンロードしていただくこともあることとおもう。 参考文献は授業時に紹介する。（特に1回目）		課題・定期試験・その他	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語の読解力を高める。 フランス語で書かれた時事的な記事にしたしむ。 テキストとしては主としてフランスの中学生向けの新聞（日刊紙）から最新の記事を持ちいる。 各自が事前に配布された文章を読み、必要なことから調べ、授業で確認をおこばう、という作業を基本とする。 特に10月中旬（10月20日の予定）、11月中旬（11月17日の予定）、12月中旬（12月15日の予定）には課題の提出を求める。課題の内容・形式等については第1回目の授業で説明をおこなう。計3回の課題の提出をおこたったものは、評価を自動的にFまたはX（3年生）、FGまたはX（4年生）にする。 時事的な文章に限らないが、当該外国語の能力以上に（母語でそなわっているはずの）教養・知識・判断力が問題となってくる。伝達媒体にはこだわらないから、なるべく多くの情報に接するようにこころがけてほしい。		春学期参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ジャン-ジャック・ルソーが 1762 年に出版し、フランス革命（1789）の理論的支柱の一つとなった『社会契約論 Du contrat social』を講読します。 この本は現代民主主義の理論を確立したもので、後世に計り知れない影響を与えました。この講読では序文から少しずつ丁寧に読んでいきます。毎回 1 ページほどを学生諸君に訳してもらい、解説を加えるという形で授業を進めます。大切な問題を扱っているので、出来る限り分かりやすく解説します。 重要な古典を原文で読み、自分で考える訓練をしてもらいたいと考えています。		扱われる内容（『社会契約論』 第一巻） 1 第 1 章 sujet de ce premier livre 2 第 2 章 des premières sociétés 3 第 2 章 des premières sociétés(suite) 4 第 3 章 du droit du plus fort 5 第 4 章 de l'esclavage 6 (続き) 7 (続き) 8 (続き) 9 (続き) 10 第 5 章 Qu'il faut toujours remonter à une première convention 11 第 6 章 du pacte social 12 (続き) 13 (続き) 14 (続き) 15 まとめ	
10		評価方法	
Jean-Jacques Rousseau, <i>Du contrat social</i> , GF Flammarion 参考書は授業の際指示します。		平常点と期末試験の成績で評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ジャン-ジャック・ルソーが 1762 年に出版し、フランス革命（1789）の理論的支柱の一つとなった『社会契約論 Du contrat social』を講読します。 この本は現代民主主義の理論を確立したもので、後世に計り知れない影響を与えました。この講読では序文から少しずつ丁寧に読んでいきます。毎回 1 ページほどを学生諸君に訳してもらい、解説を加えるという形で授業を進めます。大切な問題を扱っているので、出来る限り分かりやすく解説します。 重要な古典を原文で読み、自分で考える訓練をしてもらいたいと考えています。		1 第 7 章 du souverain 2 (続き) 3 第 8 章 de l'état civil 4 第 9 章 du domaine réel 5 (続き) 6 (続き) 7 (続き) 8 第 2 巻第 1 章 9 第 2 章 10 (続き) 11 第 3 章 12 (続き) 13 第 4 章 14 まとめ (1) 15 まとめ (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jean-Jacques Rousseau, <i>Du contrat social</i> , GF Flammarion 参考書は授業の際指示します。		平常点と期末試験の成績で評価します。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09 年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。 近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。 なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。		1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブルツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 開発と持続可能性概念（続き） 5. 地球環境問題 6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 7. エコツーリズム（歴史と概説） 8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 9. エコミュージアム（歴史と概説） 10. LOHAS（ロハス）と観光 11. 欧米のグリーンツーリズム 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。 講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。I T時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。 宿泊産業では全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタリティー産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。		1. 講義の概要 2. 旅行業とは①旅行業の機能・役割 3. 旅行業とは②旅行市場と旅行業の現状 4. 旅行業の歴史 5. 旅行業の商品と形態 6. 旅行業と消費者保護 7. 旅行業界の現状と課題・展望 8. ホテルとは 9. ホテルの分類 10. 欧米におけるホテルの歴史 11. 日本におけるホテルの歴史 12. ホテル業の動向 13. ホテルの組織と経営特性 14. ホテル業界のホスピタリティー 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果に基づいて判断する。	

09 年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
講義目的、講義概要		授業計画	
メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。 文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げ上達するものではないということだ。記事を書くことの根底には、個人として、ジャーナリストとしての確たる「ものの見方」が不可欠である。 ものの見方には、書き手の全人格が投影されると言っている。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。この3つの心構えを理解し、記事を書くための基礎的な知識を習得してもらう。 新聞業界の現状についても言及する。今後、新聞紙から電子ペーパーへ媒体が変貌しても、文字情報の重要性は変わらない。日々発信される記事の功罪を具体例を交えて検証し、情報を正しく理解するための力も養ってほしい。 講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。		1. オリエンテーション 2. 新聞報道の歴史と変遷 3. ジャーナリズムと「ものの見方」 4. ジャーナリスト列伝 5. 新聞記事（1）構成と執筆手法概論 6. 新聞記事（2）取材とインタビュー法 7. 新聞記事（3）事実と真実の表現法 8. 新聞記事（4）論説・社説とは 9. 新聞記事（5）編集のプロセス 10. 新聞記事（6）国際取材の方法 11. ルポルタージュ（1）題材 12. ルポルタージュ（2）取材 13. ルポルタージュ（3）発表 14. ルポルタージュ（4）評価 15. メディアの未来を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		授業における課題ルポルタージュの成果（70％）と出席・質疑応答などの実績（30％）で評価する。	

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。 講義概要 ・ 経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。 ・ 米のオープンスカイ戦略、EUの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。 ・ 国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。 ・ 航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、その先を考察する。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 日本の空で起きていること、航空産業の枠組み 3. 民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制 4. 米のオープンスカイ戦略とLCC、CRS、H&S 5. EUの戦略；単一航空市場、“Community Air Carrier” 6. ディベイト；「日中韓、北東アジア共通航空市場」 7. グローバル・アライアンス（1）誕生の背景、動向 8. グローバル・アライアンス（2）増収、世界戦略 9. 日本の航空のこれから 10. 航空のサービスとホスピタリティ 11. 日本から発信するホスピタリティ 12. 航空と観光 13. 航空とCSR，地球環境 14. 北東アジア共通航空市場を考える 15. 各人の到達点、全体講義のまとめ * 専門家の講話も検討する * 上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ANA総研『航空産業入門』（東洋経済新報） 参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、ANA総研『エアライン・オペレーション入門』（ぎょうせい）他		期末試験（70％）に、出席状況、授業での発表他参画姿勢など総合的に評価する	

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。 近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』		1. 講義の概要 2. 開発＝近代化と文化変容 （ビデオ『ラダック：懐かしい未来』※予定） 3. 開発とは何か、貧困とは何か 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. コミュニティと外部を結ぶ人材 10. 開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 文化変容とグローバル公共空間 14. 内発的な発展論 （ビデオ「回生：鶴見和子の遺言」※予定） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的な発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。 【講義概要】 テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客であるStuart Hall が、イギリスのOpen University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997) から抜粋(pp. 153-222)を用いる。 テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。		1. イントロダクション 2. セクション 2 3. 続き 4. セクション 3 5. 続き 6. セクション 4 7. 続き 8. 続き 9. ディスカッション 10. セクション 5 11. 続き 12. 続き 13. セクション 6 14. 続き 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のほか、適宜、参考文献を紹介する。		学期末に提出するレポートによる。	

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナルリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. 食育と学校 10. コーヒーのグローバルヒストリー 11. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 12. スローフード、産直提携、community-supported agriculture、地産地消 13. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムを作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。		- 趣旨説明 - グローバリゼーションの民族誌 1 - グローバリゼーションの民族誌 2 - 観光の誕生 - ビデオ上映 - 表象の政治学—情報資本主義と観光 - メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 - 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 - 文化装置としてのホテル - 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 - セックス・ツーリズム—タイの事例 - 少数民族と観光—タイの事例 - 文化の著作権と「サンタクロース民族」 - 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 - まとめ・予備日 (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。 講義概要 近年、文化人類学の研究対象にもなっている観光現象を、文化の視点から検証し、観光と文化、観光人類学の定義、課題等、基本的なことを学習する。 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点からも考察し、観光現象を多面的に理解する。 併せて、観光開発の光と影にも触れ、文化の変容についても考える。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。		1. 講義の概要 2. 文化への新しいアプローチとしての観光 3. 観光の誕生・擬似イベントとしての観光 4. 観光旅行の諸類型・疑似体験としての観光旅行 5. 観光を作り出す仕掛け・イメージの形成とメディア 6. 文化現象としての観光文化の商品化と観光文化 7. 観光の文化的インパクト 8. 観光行動と文化の真正性 9. 観光と伝統の発明 10. 観光による楽園の創造 11. 模型文化と観光芸術 ① 12. 模型文化と観光芸術 ② 13. 新たな観光へ① 14. 新たな観光へ② 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果に基づいて評価する。	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。 講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。		1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望① 14. イベント・コンベンションの課題と展望② 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント&コンベンション概論（JTB能力開発）その他は適宜指示する。		試験結果に基づいて判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、その中で営まれた「上から目線」のツーリズム政策の問題を検証し、あるべきツーリズム政策の姿、方向を身近な距離で捉える。 講義概要 ・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド観光政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。 ・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探究する。 ・上記コンテキストの中で「若者の旅離れ」や「旅育」など現代的な風潮、課題についても考察する。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. ツーリズムの力、政策の位置づけ 3. 日本の観光政策の史的考察 4. 観光の経済力、規模、影響力 5. アウトバウンド・ツーリズム政策の筋を考える 6. インバウンド・ツーリズム政策の検証、国際比較 7. ディスカッション；「若者の旅離れ」、「旅育」 8. 貿易立国から観光立国への道 9. 日本のツーリズム政策の課題（1）景観、風土 10. 日本のツーリズム政策の課題（2）リゾート開発等 11. エコロジーを考える 12. 若者の旅離れと、上から目線の観光政策 13. 観光立国を考える 14. ディスカッション；「あなたが考える観光立国とは」 15. 夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する		期末試験（70％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム政策が国レベルの視点だとすると、ツーリズム・マネジメントは産業レベルでの政策と捉えられるだろう。景観破壊や地域破壊に繋がる商業主義から脱し、CSR、自然や景観（風景）を守ること視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。 講義概要 ・風景、地域環境、自然の破壊に繋がる商業第一主義のツーリズム運営を検証し、風景や自然と共に発展するツーリズムを捉える中で、リゾート法のもたらした功罪を考える。 ・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅行離れの実体、これからを考える。 ・「和」の日本旅館の衰退の実態を掴み、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」に目を向けこれからのツーリズム・マネジメントを捉える。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 観光産業の構造と観光の要素 3. 観光の経済波及効果 4. 観光産業の規模と課題 5. 縮小する旅行業の課題 6. 日本旅館の衰退とアート経営が生む奇跡の旅館 7. ディスカッション；「和 - 日本旅館を救済する」 8. 航空産業とツーリズム 9. ホスピタリティを導入するツーリズム 10. ツーリズムから見える日本の課題 11. 景観、自然を守るツーリズム vs リゾート開発 12. ディスカッション；「エコツーリズムを考える」（予定） 13. 着地型観光とツーリズム・マネジメント 14. 企業の社会的責任とツーリズム・マネジメント 15. 夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する		期末試験（70％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。 講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。 海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、また、代表的な世界遺産についても学習します。 「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。		1. 講義の概要 2. 多様化するメディア(1) 3. 多様化するメディア(2) 4. ツーリズムの新たな動向(1) 5. ツーリズムの新たな動向(2) 6. 進化するマーケティング(1) 7. 進化するマーケティング(2) 8. 観光誘致策(1) 9. 観光誘致策(2) 10. メディア販売(1) 11. メディア販売(2) 12. 企業広報(1) 13. 企業広報(2) 14. 旅行業法の枠組み 15. 世界遺産セレクト 10 (日次の順序は前後します)	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（50%）＋平常授業における課題レポート等（50%）＝100 点満点	

09 年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでの NGO 活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. 講義の概要 2. 地域の発展を理解するための視座 3. 内発的発展と外来型開発 4. 組織・制度化 (institutionalization) 5. 住民参加(participation)の意義と多義性 6. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 7. 内発的発展におけるキーパーソン 8. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグランを例として 9. コミュニティマネー (ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』) 10. コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでの NGO 援助を事例として 11. 過疎地の地域づくりと外部者のまなざし 12. 多文化共生と地域づくり 13. まちづくりと観光 (ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』) 14. 大学とまちづくり 15. まとめ：まちづくりは人づくり	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。 〔講義概要〕 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。		第1 回：イントロダクション 第2 回：パフォーマンスとは何か 第3 回：パフォーマンス研究とは何か 第4 回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5 回：宗教祭祀の比較研究 第6 回：世俗儀礼の比較研究 第7 回：パフォーマンスと民族誌 第8 回：パフォーマンスと遊戯 第9 回：国際的パフォーマンス 第10 回：アイデンティティとパフォーマンス 第11 回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12 回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13 回：パフォーマンスとパフォーマンス・メディア 第14 回：パフォーマンスと現代思想 第15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：高橋雄一郎・鈴木健編『パフォーマンス研究』（世界思想社）、参考文献：Richard Schechner, Performance Studies: An Introduction, New York: Routledge, 2006. 高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005ほか。		学期中の小レポートと学期末レポートの合計	

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 講義の概要 2. 社会学とはどのような学問か 3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。 テッサ・モーリス・鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。		- 趣旨説明 - オルタナティブ・ツーリズムの背景 - ビデオ上映(ジャマイカの観光開発) - 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 - 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 - ビデオ上映（バックパッカーの窮状） - 先住民と観光—北米イヌイットの事例 - 先住民と開発—開発的遭遇 - 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 - 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として - ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

2011年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学用)

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第 2 次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EU の制度的起源(1)：ECSC の成立 10~11. EU の制度的起源(2)：EEC の成立 12~14. EEC の定着期 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェ、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降の EU 7~8. EU の制度 9~10. EU の諸政策 11~12. 加盟国と EU 13~14. EU 域外との関係 15. EU の現在の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェ、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

03 年度以降	総合講座（楽しい文学とのつきあい方）	担当者	コーディネーター 工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
この総合講座では、文学をパフォーマンスとして捉えることによって、堅苦しくなく接するための様々な方法を受講者のみなさんに提供したいと思います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が文学についてそれぞれ個性的なアプローチで、既成の枠に捉えられない「楽しい」お話をします。担当者の専門によって、音楽や舞台芸術、文学の解釈や実際の応用まで変化に富みながらも深い味わいのある講義内容となる予定です。この講座を通じて受講者のみなさんが、文学の楽しみ方は自由で開かれたものであることを理解し、そして文学に関して各々が新しい発見をすることができるよう願っています。 注意事項：「楽しみの中にも礼儀あり」。授業中は、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します		1. 工藤達也(本学ドイツ語学科教授)最初に 2. 児島一男（本学英語学科教授）現代英語圏の演劇（ドラマリーディング） 3. 原成吉（本学英語学科教授）英詩の伝統とロック・ミュージック——Bob Dylan を読む 4. 片山亜紀（本学英語学科准教授）『不思議の国のアリス』のその後 5. 若森栄樹(本学フランス語学科教授) フランス文学入門——アルペール・カミュを中心に 6. 谷口亜沙子(本学フランス語学科専任講師)ダダ 7. 田中善英(本学フランス語学科教授)『星の王子さま』からのメッセージ 8. 工藤達也 文学と声 9. 未定(外部講師依頼中) 10. 山本淳(本学ドイツ語学科教授)ブレヒト『三文オペラ』の楽しみ方 11. 柿沼義孝(本学ドイツ語学科教授) 能と文学 12. 矢羽々崇(本学ドイツ語学科教授) 楽しいパロディ——メルヒェン・パロディを例に—— 13. 上野直子（本学英語学科教授）I will be there for you 14. 前沢浩子（本学英語学科准教授）Shakespeare と新しいメディア 15. 工藤達也 講義のまとめと試験対策など	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

03 年度以降	総合講座（都市を読み解く）	担当者	コーディネーター 飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、言語、歴史、文化、建築、都市計画、社会、政治、経済など、多様な視点から都市を読み解き、都市の諸相を把握することを目的とする。本講座を通じて、受講者は各都市の個別事象を知るだけではなく、多様なディシプリン、分析視点、問題設定等についても理解し、今後の学習に役立ててほしい。		1. 飯嶋曜子(ドイツ語学科)：導入、都市論の可能性 2. 須永和博（交流文化学科）：都市人類学への招待 — 東京のなかの異界 3. 金子芳樹（英語学科）：先進都市シンガポールの光と影 4. 佐野康子（英語学科）：「新しい花」の咲く都市 — エチオピアの首都アジスアベバ 5. 日野克美（交流文化学科）：モンテリオールの街路名 6. 児島一男（英語学科）：Ulysses (by James Joyce)を基にした Dublin Walking Tour Guide 7. 青山愛香（ドイツ語学科）：ニュルンベルクと 15 世紀の出版革命 8. 矢羽々崇（ドイツ語学科）：退廃と健全 両面の街ベルリン 9. 岡村りら（ドイツ語学科）：ベルリン— 壁崩壊前と後 10. 前沢浩子（英語学科）：ロンドン — 近代都市の変貌 11. 上野直子（英語学科）：もうひとつのロンドン 12. 江花輝昭（フランス語学科）：パリのグランド・デザイン 13. 鈴木隆（フランス語学科）：パリ — 都市の広がりと景観 14. 飯嶋曜子（ドイツ語学科）：千葉県佐原 — 都市の景観保全とまちづくり 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて各担当講師が提示する。		出席状況，レポートもしくは試験により評価	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 1 15 授業のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に最適な内容と考える。 【概要】 ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は 1 人 1 台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを収集したり、その分析結果をレポートにまとめたりすることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。		1. 【ガイダンス】 2. 言語の基本（1）：品詞 3. 言語の基本（2）：形態素、単語、句、節 4. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7. 学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8. 学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9. 学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13. 最終レポート準備（1） 14. 最終レポート準備（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。 【概要】 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。 授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、学生の作業、演習、発表が中心になる。		1. 【ガイダンス】 2. 学習者言語の分析の視点（1）：概要 3. 学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4. 学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5. 学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6. 学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7. データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8. データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9. 学習者コーパスの加工：tagging（1） 10. 学習者コーパスの加工：tagging（2） 11. 分析（1） 12. 分析（2） 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいたとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）		1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 Excel 関数のネスト(3) 10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14 データベースの活用 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末試験および 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。		1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー 11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末レポートおよび 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論(HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む)</u>を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進じます。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。	

03 年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03 年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス フランス語学科

2011年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	